図解イスラームガイド

このガイドはイスラームとムスリム（イスラーム教徒）を理解することを目的として、多くの専門家や知識人の校閲のもとに編集されました。簡潔で読みやすい内容となっている一方、様々な情報や参考資料、参考文献一覧、図解などを豊富に盛り込み、科学的情報も満載されています。 本書は英文著書 **A Brief Illustrated Guide to Understanding Islam** の全訳であり、目次は以下のようになっています。

第２章

イスラームの恩恵

第３章

イスラームの一般知識

序文

本書はイスラーム理解のための簡潔なガイドで、3 章から構成されている。

第 1 章 **イスラームの真実性の証し**では、人びとが疑問を抱いている幾つかの重要な問題に答えを示している。その疑問とは:

- クルアーンは本当に神によって啓示された言葉なのか。
- ムハンマドは本当に神によって遣わされた預言者なのか。
- イスラームは本当に神からの教えなのか。

更にこの章では、クルアーンの真実性の証拠として 6 つのテーマが取り上げられている。

1) **科学的視点から見た聖クルアーンの奇跡:** ここでは近年になって発見された科学的事実であるにも関わらず、1400 年前に啓示さ

れた聖クルアーンの中で既に言及されていたものを、図解を用いて論じている。

2) **聖クルアーンに匹敵するものをただの1章でも創り出す事の不可能性:** クルアーンの中で神は全人類に対し、クルアーンの 1 章に匹敵するようなものを1つたりとも創り出せるものか、と挑んでいる。1400 年前にクルアーンが啓示されてから今日に至るまで、その挑戦に成功したものはいない。クルアーンにおける最短の章(第 108 章)は僅か 10 の単語から構成されているに過ぎないというのにも関わらず、である。

3) **聖書がイスラームの預言者ムハンマドの到来について言及していること:** ここでは、預言者ムハンマドの到来に関する聖書の予告を論じている。

4) **未来の出来事を予見的中させたクルアーンの節:** クルアーンは後に実現されることになる幾つかの未来の出来事について言及している。ここではその 1 例として、当時のペルシャ帝国に対するローマ帝国の勝利が挙げられている。

5) **預言者ムハンマドの行った奇跡:** 預言者ムハンマドは多くの奇跡を行った。これらの奇跡は多くの人々によって目撃されている。

6) **ムハンマドの質素な生活:** ここではムハンマドが物質的な利益や尊大さ、権力などを得るために自らの預言者性を主張したニセの預言者でないことが明らかにされている。

これら 6 つの証拠から、次のことを結論付けることが出来る。

- クルアーンは神によって啓示された言葉である。
- ムハンマドは神によって遣わされた真の預言者である。
- イスラームは神からの真実の教えである。

ある宗教の真偽を見極めたいと思う者は、その感情や感覚、習慣に照らし合わせて判断するのではなく、むしろ理性と知性に依拠して判断するべきである。諸預言者を遣わした時、神は彼らが神から遣わされた真の預言者

であり、彼らに託された教えが真の宗教であることを証明するために奇跡や証拠を示し、彼らを支えたのである。

第2章 **イスラームの恩恵**では、イスラームが個々人に与える恩恵の幾つかについて取り上げている。それらはつまり次の 4 点である。

1) **永遠の楽園への扉**
2) **地獄の業火からの救い**
3) **真の幸福と心の平安**
4) **過去の罪がすべて赦されること**

第3章 **イスラームの一般知識**では、誤解を抱かれているイスラームの一般的知識を明らかにし、以下に示すような一般的な質問に答えている。

- テロリズムに対するイスラームの立場
- イスラームにおける女性の地位

第 1 章 イスラームの真実性の証し

神は数多くの奇跡や証拠をもって、預言者ムハンマドが神から遣わされた真実かつ最後の預言者であることを示した。また同様に神は最後の啓典である聖クルアーンについても数多くの奇跡をもって、それが神によって啓示された言葉であり、決して人間が書いたものではないことを証明した。本章ではその証明について取り上げる。

(1) 科学的視点から見た聖クルアーンの奇跡

神の言葉クルアーンは、天使ガブリエル（ジブリール）を通じて預言者ムハンマドに啓示された。 ムハンマドはそれを口頭暗記した後、教友たちに伝えた。そして今度は彼ら

がそれを暗記し書面に残し、ムハンマドの前でその正誤の確認をした。更にムハンマドは毎年一度天使ガブリエルの前でクルアーンを復唱し、彼が亡くなる年にはそれを 2 度繰り返している。クルアーンが啓示されてから現在に至るまでいつの時代にも、クルアーンを一字一句抜かすことなく全暗唱した数あまたのムスリムが存在していた。その中には 10 歳に満たずしてクルアーンを全暗記した者たちすらいる。クルアーンは何世紀にも渡って一字たりとも改変されてはいないのだ。

クルアーンは 1400 年前に啓示された。にも関わらず、そこには近年になって初めて科学者によって発見され証明された事実が記述されている。この事は紛れもなく、クルアーンが神によって預言者ムハンマドに啓示された神の言葉であり、ムハンマド自身や他の人間によって創作されたものでないことを証明している。そしてまたそれは、預言者ムハンマドが神から遣わされた真の預言者であることの証明でもある。1400 年も前の時代に生きた人が、近年になって初めて精密機器や高度な科学的手段によって発見され証明された事実を知りえたとは到底信じがたいのである。そのいくつかの科学的事実について考察していこう。

A) 人間の胎児の発育について

クルアーンの中では、人間の胎児の発育段階について次のように記述されている。

> **われ（＊注1）は泥の精髄から人間を創った。そしてわれは彼を一滴の精液として、堅固な住みかに納めた。それからわれは、その精適から一個の アラカ（ヒル、釣り下がったもの、血の塊の意）を創り、その アラカ から ムドゥガ（嚙み潰したもの）を創り…（以下略）** （＊注2）（クルアーン 23:12-14）

アラビア語の アラカ という言葉には3つの意味がある。すなわち（1）ヒル（2）釣り下がったもの（3）血の塊、である。

アラカ の段階にある胎児をヒルと比較すると、図 1 に示されるように両者に形状の点での類似性が見られる。（＊注3）またこの段階にある胎児は母親

の血液から栄養を摂取するが、ヒルも同じように他の生物の血を吸って生きる糧としている。（＊注4）

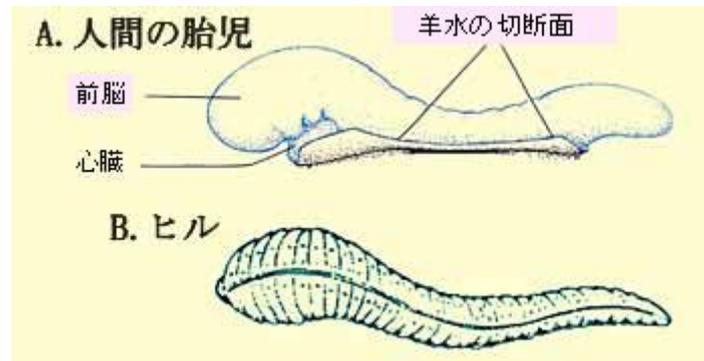



図1:ヒルと、アラカの段階における人間の胎児の形状の類似性。(ヒルの図の出典: *Human Development as Described in the Quran and Sunnah*, Moore and others, p.37 及び *Integrated Principles of Zoology*, Hickman and others から一部修正。 胎児の図の出典:*The Developing Human*, Moore and Persaud,5th ed., p.73)

アラカ という言葉の 2 つ目の意味は「釣り下がったもの」である。図 2 と図 3 に示されるように、アラカ の段階にある胎児は母親の子宮内で釣り下がった状態にある。

図2: 胎児はアラカ の段階にあるとき、母親の子宮内で釣り下がった状態にある。 (*The Developing Human*, Moore and Persaud, 5th ed., p.66)

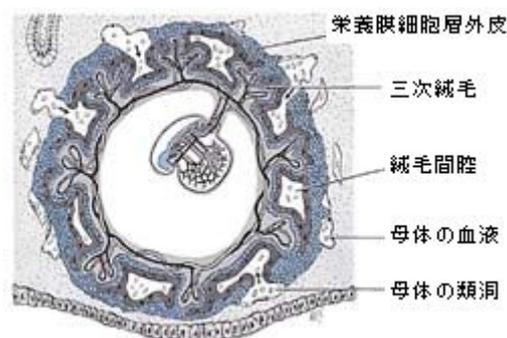



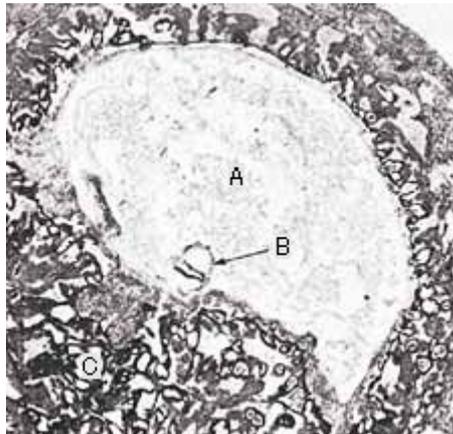
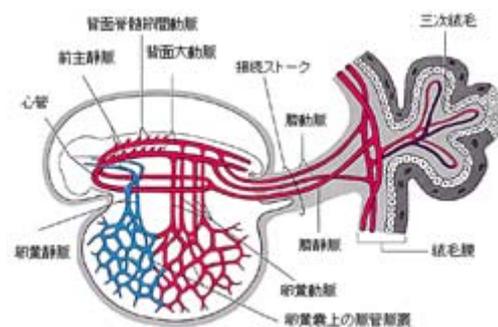
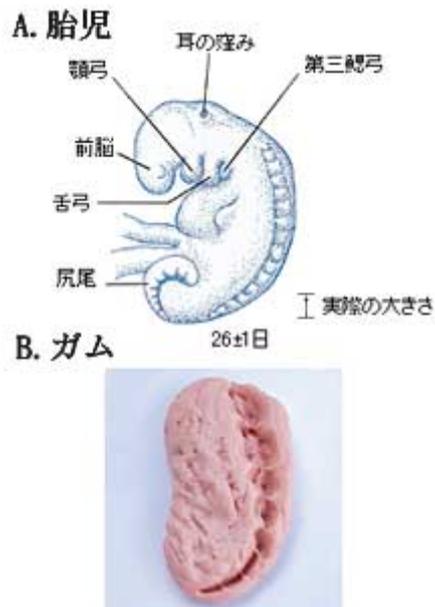
図3:アラカの段階にある胎児(約 15 日目、B の矢印)が母親の胎内で釣り下がった状態にあることを示す顕微鏡写真。 胎児の実際の大きさは約 0.6 mm である。(*The Developing Human*, Moore, 3rd ed., p. 66, from *Histology*, Leeson and Leeson)

そして アラカ の 3 つ目の意味は、「血の塊」である。アラカ の段階での胎児の外観とその胎嚢は、血の塊と酷似している。それはこの段階の胎児には、相対的に見て多量の血液が存在しているためである(図 4 を参照)。(＊注5) またこの段階においては胎児の中の血液は循環せず、その状態は第 3 週目終盤まで継続する。(＊注6) このような理由からも、この段階での胎児は血の塊に類似していると言える。

図4: アラカの段階にある胎児の初期循環器系図。 胎児の外観とその胎嚢は、胎児の中に相対的に見て多量の血液が含有されていることにより、血の塊と酷似している。 (*The Developing Human*, Moore, 5th ed., p. 65)

このように アラカ という言葉の持つ3つの意味は、アラカ の段階にある胎児の諸特徴と正確に一致している。

さて、クルアーンの中に記述されている2番目の胎児の発育段階は ムドゥガ である。アラビア語の ムドゥガ は、「噛んだもの」を意味する。 口の中に入れて噛んだガムと、ムドゥガ の段階にある胎児の形状を比較してみよ

う。両者の間に外観上の類似性が認められるであろう。これは胎児の後背部の体節の形状が、噛み潰したものに付いた歯形と若干似ていることによるためである（図 5 と図 8 を参照）。(＊注7)

図5: ムドゥガの段階(28 日目)にある胎児の写真 。 この段階の胎児は何か噛み潰した物体のように見えるが、それは胎児の後背部にある体節が歯形と若干似ているからである。 胎児の実際の大きさは 4 mm。 (*The Developing Human*, Moore and Persaud, 5 th ed., p. 82, 写真は京都大学西村秀雄教授より転用)

図 6： ムドゥガの段階にある胎児の外観と噛み潰したガムを比べると、両者に類似点があることが分かる。
A) ムドゥガの段階にある胎児の図。 胎児の後背部の体節が歯形のように見える。 (*The Developing Human,* Moore and Persaud, 5th ed., P. 79)
B) 噛み潰したガムの写真。

ムハンマドはどのようにして、1400 年も前にこのような事実を知りえたのだろうか。これらの知識は、科学者がその当時存在しなかった精密機器や

高性能顕微鏡を駆使して、近年になって初めて発見したものなのである。ハムとレーウェンフックは改良された顕微鏡を用いて精細胞（精子）を観察した最初の科学者であるが、これは 1677 年のことで、実にムハンマドの時代から既に 1000 年も後のことなのである。しかも彼らは精細胞の中には人間の形のミニチュアが既に保存されていて、それが女性の生殖管に挿入されると成長し始めるのだと誤解していた。（＊注8）

キース・ムーア（Keith Moore）名誉教授（＊注9）は、解剖学と発生学の分野で世界的に最も高名な科学者であり、*The Developing Human* （邦訳「ムーア人体発生学」医歯薬出版）の著者である。科学的に卓越した参考文献とみなされているこの著書は 8 ヶ国語に翻訳されており、米国特別委員会において単独の著者による最優秀著作品に選ばれた。彼はカナダのトロント大学の解剖学･細胞生物学の名誉教授で、同大学の医学部で基礎科学の副学部長を務め、解剖学科の主任教授を 8 年間務めた。また 1984 年には、カナダの解剖学の分野で最も優れた賞である J.C.B 大賞をカナダ解剖学者協会から授与され、更にはカナダ・米国解剖学者協会や生命科学連盟委員会など、同分野における多くの国際的組織を指導する役割を担ってきた。

1981 年、サウジアラビアのダンマンで開催された第 7 回医学会議で、ムーア教授は次のように述べた。

「人間の発育に関してクルアーンの中で述べられていることを解明する手助けをすることは、大変喜ばしいことだ。これらの言葉が神からムハンマドに伝達されたということは、明白であると思う。これらの知識は全て、何世紀も後になって初めて発見されたものなのだ。私はこの事実が、ムハンマドが神の使徒であったに違いないことを示していると思う。」（＊注10）

そのコメントの後、ムーア教授は次のような質問を受けた。「ということは、あなたはクルアーンが神の言葉であると信じるのですか。」すると彼は答えた。「そうとらえるのは難しいことではありませんね。」（＊注11）

またムーア教授は別のある会議で次のようにも述べている。

「 ...人間の胎児の発育段階区分は、そこにおいて変化する過程が連続しているため複雑なのである。それゆえクルアーンと スンナ （ムハンマドの言行、及び彼が承認したこと）の中で示されている用語を使って、新しい区分体系を開発するのはいかがだろうか？そこで提案された区分体系はシン

プルかつ包括的であり、現代の発生学の知識と適合している。過去 4 年間クルアーンと ハディース（預言者ムハンマドの教友たちが彼の言行や承認したことを伝えた伝承録）を徹底的に研究した結果、人間の胎児の発達段階を分類する体系が明らかになったが、それが既に 7 世紀の昔に記録されていたことは驚くべき事実である。発生学の創始者であるアリストテレスは、紀元前 4 世紀に鶏の卵の研究を通じてヒヨコの胚が段階的に発育することを知っていたが、その段階の詳細にまでは触れなかった。発生学の歴史で知られていることに限れば、人間の胎児の発達段階とその分類は、20 世紀になるまでは殆ど解明されていなかったのだ。このことから、人間の胎児に関するクルアーンの説明は 7 世紀当時の科学的知識に基づいていたとは考えられない。唯一の理にかなった結論は、これらのメッセージが神からムハンマドに啓示されたということだけである。 彼は科学的な教育を全く受けたことのない文盲であり、このように詳しいことまで知りえたはずがなかったのだ。」（＊注12）

脚注:

(注1) 唯一神アッラーの自称。

(注2) 本書において　…　括弧で囲まれた文章は、クルアーンの意味解釈に過ぎない。アラビア語以外のクルアーンは原典とはみなされない。

(注3) *The Developing Human*（邦訳「ムーア人体発生学」医歯薬出版）、Moore and Persaud, 5 th ed., p. 8.

(注4) *Human Development as Described in the Quran and Sunnah*, Moore and others, pp. 36.

(注5) *Human Development as Described in the Quran and Sunnah*, Moore and others, pp. 37-38.

(注6) *The Developing Human*（邦訳「ムーア人体発生学」医歯薬出版）、Moore and Persaud, 5 th ed., p. 65.

(注7) *The Developing Human*（邦訳「ムーア人体発生学」医歯薬出版）、Moore and Persaud, 5 th ed., p. 8.

(注8) *The Developing Human*（邦訳「ムーア人体発生学」医歯薬出版）、Moore and Persaud, 5 th ed., p. 9.

(注9) 本書で挙げた全科学者の肩書は、1997 年当時のものである。

(注10) この発言の出典は *This is the Truth* (ビデオテープ)である。このビデオテープのコピー、あるいはムーア教授のビデオクリップ参照については、拙ウェブサイト www.islam-guide.com/truth をご訪問頂きたい。

(注11) *This is the Truth* (ビデオテープ)。

(注12) *This is the Truth* (ビデオテープ)。

B) 山について

世界中の大学で広く採用されている基礎的な参考書に、*Earth* という題の本がある。この本の共著者の一人が、フランク･プレス(Frank Press)名誉教授である。 彼はジミー･カーター元米大統領の科学顧問であり、ワシントンにある国立科学アカデミーの所長を 12 年間務めた。彼はこの著書の中で、山には基礎を形成する基底が存在すると述べている(＊注1)。これらの基底は地中深くにくい込んでおり、それゆえ山はちょうど杭のような形をしている(図 7、8、9 を参照)。

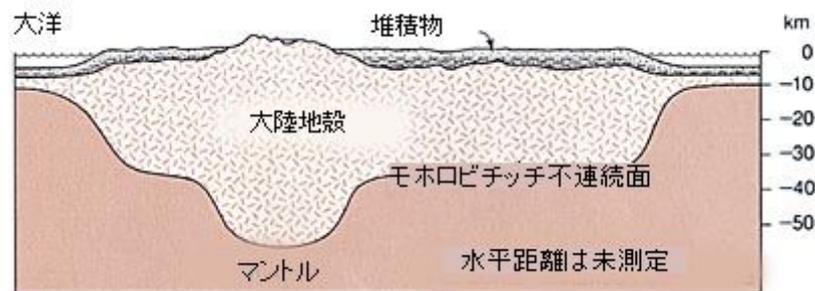



図 7： 山の地面下方には深い基底がある。(*Earth*, Press and Siever, p. 413.)

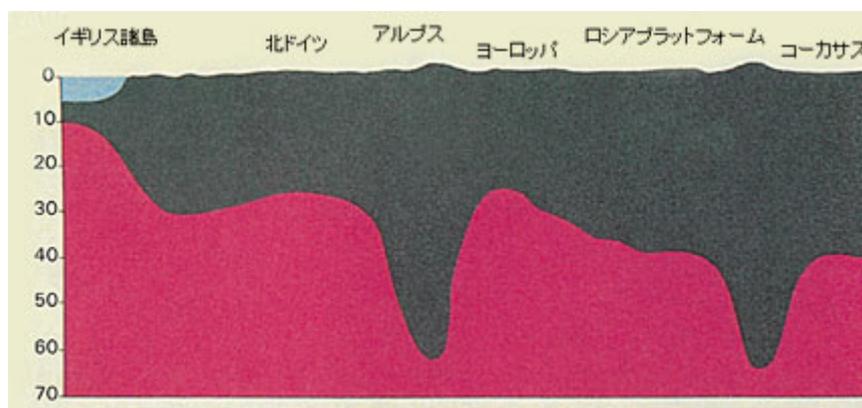



図8: 断面図。山にはちょうど杭のように地中深くにくい込んだ基底がある。 (*Anatomy of the Earth*, p. 220.)

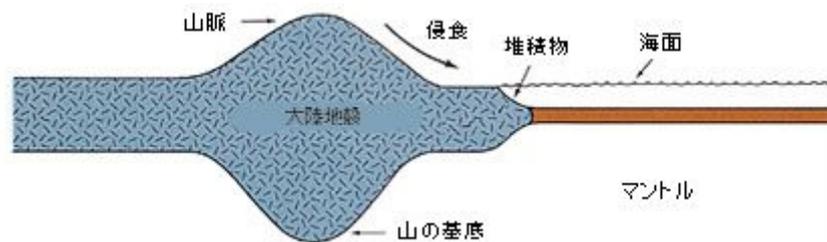



図9: この図は山に深い基底があり、杭のような形になっていることを示している。(*Earth Science*, Tarbuck and Lutgens, p. 158.)

これはクルアーンが山について説明している通りである。クルアーンにはこう記述されている。

われは大地を臥所（ベッド）とし、また山々を杭としたではないか。（クルアーン 78:6-7）

現代の地球科学は、山の地中には深い基底があり（図 9）、これらの基底の長さが地上に出ている部分の数倍にまで及ぶことを証明している。（＊注2）この事実から、山を描写する上で最も適した言葉が「杭」なのである。というのも杭というものは、きちんと地面に据え付けようとすれば、その大半が地中に埋め込まれた形になるものであるからだ。

科学の歴史を見ると、山に深い基底があるという理論は、1865年になって初めて地質学者ジョージ・アイリー卿によって提唱された。（＊注3）

また山は、地殻を安定させるという重要な役割を果たしている。（＊注4） 山が地球の震動を防いでいるという事実は、クルアーンの中で次のように描写されている。

またかれは、地上に山々を堅固に据えられた。これはあなた

がたを揺れ動かせないためである…　（クルアーン 16:15）

同じように、地質構造学の現代理論は山に地球を安定させる働きがあることを認めている。地球を安定させるという山の機能に関するこの知識は、地質構造学界においては 1960 年代後半以降になってようやく理解されてきたことなのである。（＊注5）

果たして預言者ムハンマドの時代に、山の本当の形状を知っている者がいたであろうか？ 科学者が主張するように、自分の目の前にそびえる堅固かつ巨大な山が、実際には地中深くに根を下ろしていることを想像できる者がいたであろうか？ 現代地質学はクルアーンの信憑性を立証している。

脚注:

(注1) *Earth*, Press and Siever, p. 435 頁. また *Earth Science*, Turbuck and Lutgens, p. 157 も参照されるとよい。

(注2) *The Geological Concept of Mountains in the Quran*, El-Naggar, p. 5.

(注3) *Earth*, Press and Siever, p. 435 頁. また *The Geological Concept of Mountains in the Quran*, El-Naggar, p. 5 も参照されるとよい。

(注4) *The Geological Concept of Mountains in the Quran*, El-Naggar, pp. 44-45.

(注5) *The Geological Concept of Mountains in the Quran*, El-Naggar, p. 5.

C) 宇宙の起源について

現代宇宙科学は観測上および理論上のいずれの点においても、宇宙全体が過去のある時点において「煙」（不透明で高密度、高温のガス混合物）状の物体であったことを解明している。（＊注1） これは議論の余地のない現代宇宙学の基本原則である。今日の科学者達は、この煙状体の残留物から新しい星が形成される様子を観察している（図 10 と図 11 を参照）。

図10: ガスと塵から成る雲上の物体(星雲)から新しい星が形成される様子。この物体は全宇宙の発生源である「煙」の残留物の一部である。(*The Space Atlas*, Heather and Henbest, p.50.)

図11: ラグーン星雲はガスと塵から成る雲状の形態で、その直径は約 60 光年。この星雲はその塊の中で最近形成された高温の星の紫外線放射によって励起

された。(*Horizons, Exploring the Universe*, Seeds, plate 9, from Association of Universities for Research in Astronomy, Inc.)

夜空に輝く星は、全宇宙が以前そうだったように「煙」状の物質の中にある。クルアーンにはこう述べられている。

> **それからかれはまだ煙であった天に転じられた…** (クルアーン 41:11)

天体(太陽、月、星、惑星、星雲など)と地球はこの同じ「煙」から形成されているため、天体と地球はそもそも一つの連結した存在であったと結論付けられる。そしてこの同質の「煙」から、これらが形成され、やがてお互いに分離していったのである。クルアーンにはこう述べられている。

> **不信仰者たちには分からないのか。天と地は互いに連結していたのだが、われがそれを引き分けたのだ…** (クルアーン 21:30)

世界的に著名な地質学者で、ドイツのマインツにあるヨハネス･グーテンベルグ大学地球科学研究所地質学部長の任にあるアルフレッド・クロネル(Alfred Kroner)博士は次のように述べている。「ムハンマドの素性を考えると. . .、彼が宇宙の共通の起源について知りえたとは到底考えられない。このことは科学者達が非常に複雑で高性能な技術方法を駆使することによって、ここ数年になって初めて発見した事実なのである。」(＊注2)

彼はまた次のようにも述べている。「1400 年も前に核物理学について何の知識もない者が、自力で地球と天体の起源が同じであるということを発見できたとは考えられない。」(＊注3)

脚注:

(注1) *The First Three Minutes, a Modern View of the Origin of the Universe*, Weinberg, pp. 94-105.

(注2) この発言の出典は *This is the Truth* (ビデオテープ)である。このビデオテープのコピー、あるいはアルフレッド・クロネル教授のビデオクリップ参照については、拙ウェブサイト www.islam-guide.com/truth をご訪問頂きたい。

(注3) *This is the Truth* (ビデオテープ)。

D) 大脳に関して

預言者ムハンマドがイスラームの布教を始めた当時、その支持者はごく少数であり、マッカの不信心者たちから迫害の憂き目を受けていた。ある日ムハンマドがカアバ神殿(＊注1)の前で礼拝していると、それを阻んだ悪意に満ちた不信心者がいた。クルアーンには彼についてこう述べられている。

> **いや、断じてそうではない。もし彼がやめないならば、われは彼の ナースィヤ （前頭部）をもって彼を捕まえるであろう。 嘘つきで、罪深い ナースィヤ （前頭部）を!**　（クルアーン 96:15-16）

クルアーンは、どうして前頭部をもって「嘘つきで罪深い」と描写したのであろう？ クルアーンはなぜその人間自身が嘘つきで罪深いと言わなかったのであろう？ 前頭部と、嘘つきで罪深いこととの間に何か関係はあるのだろうか？

前頭部の頭蓋骨を見ると、大脳の前頭葉があるのが分かる（図 12 を参照）。生理学では、この部位の機能についてどのように説明しているのだろうか？ *Essentials of Anatomy &Physiology*［解剖学および生理学の本質］という著書には、大脳のこの部位について次のような説明が示されている。「ある行動を計画し、始めるにあたっての動機付けと展望は、前頭葉の働きによるものである。そこは連合皮質の領域である。」(＊注2)また、次のようにも記述されている。「動機との関わりに関連して、前頭葉は攻撃的行動の機能的中枢であると考えられている。」(＊注3)

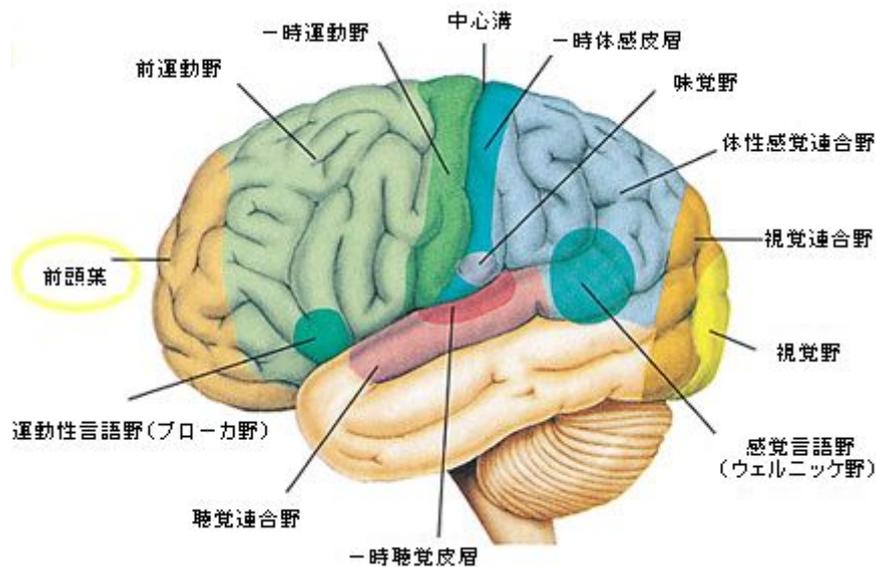



図12：大脳皮質の左半球の機能部位。前頭部は大脳皮質の前部にある。(*Essentials of Anatomy & Physiology*, Seeley and others, p. 210.

このように、大脳のこの領域は良い行いや悪い行いに関しての計画、動機付け、実行などの機能を担っている。嘘をつく、真実を語る、といった行動についても、この領域が関連している。それゆえクルアーンが「嘘つきで、罪深い ナースィヤ （前頭部）を」と述べているように、誰かが嘘をついたり罪を犯したりするとき、前頭部を嘘つきで罪深いと描写するのは的確な表現であるということになる。

なおキース・ムーア教授によれば、科学者たちが前頭葉のこれらの機能を発見したのは、ここ 60 年ほど前のことに過ぎない。（＊注4）

脚注:

(注1) イスラーム第1の聖地マッカはハラーム・モスクの中心に位置する神殿。全世界のイスラーム教徒がここに向かって礼拝する。

(注2) *Essentials of Anatomy & Physiology*, Seeley and others, p. 211. また *The Human Nervous System*, Noback and others, pp. 410-411 も参照されるとよい。

(注3) *Essentials of Anatomy & Physiology*, Seeley and others, p. 211.

(注4) *Al-E'jaz al-Elmy fee al-Naseyah (The Scientific Miracles in the Front of the Head)*, Moore and others, p. 41.

E) 海と川に関して

現代科学は、2つの異なる海の間には障壁があることを発見した。この障壁によって海は2つに分け隔てられ、それぞれの海において水温、塩分濃度、比重が異なってくることになる。[*注1] 例えば地中海の水は大西洋の水と比較すると水温と塩分濃度が高く、比重が低い。それで地中海の水がジブラルタルの貫入岩床を越えて大西洋に入ると、本来の水温と塩分濃度、低い比重を保ちながら水深およそ 1000 メートルの地点を数百キロメートル移動する。そして地中海の海水はこの深さで安定することになる。[*注2] (図 13 を参照)

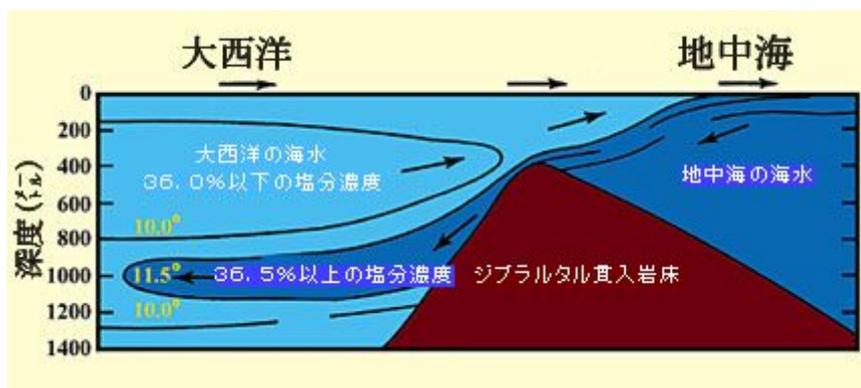



図13: 地中海の海水がその水温、塩分濃度、低い比重を保ちながら、ジブラルタルの貫入岩床を越えて大西洋に流れこんでいく。これは2つの海を分離する障壁があるためである。温度は摂氏(℃)で示されている。(*Marine Geology*, Keunen, p. 43 頁. 若干の補足あり)

これらの海の中には大波、激流や潮流があるが、互いに混じり合ったり、この障壁を越えたりすることはない。

クルアーンには、2つの海の間には障壁が存在し、双方が合流しても境界を越えることがないという事実が言及されている。

かれは2つの海を合流させられる。 両者の間には障壁が

あり、どちらもそこを越えることはない。（クルアーン 55:19-20）

しかしクルアーンは淡水と海水の隔壁について、障壁の中に「完全な分断帯」があると述べている。クルアーンにはこう述べられている：

かれこそは、2つの海を分け隔てられた御方である。 その一方は甘くして旨く、他方は塩辛くて苦い。かれは両者の間に障壁と完全な分断帯を設けられた。（クルアーン 25:53）

クルアーンは淡水と海水の間の隔壁について述べているにもかかわらず、何故2つの海の間の隔壁について述べていないのか疑問に思う人がいるかもしれない。

現代科学では、淡水と海水が合流する河口の状況は、2つの海流が合流する場所で見られる状況とは若干異なっていることが明らかにされている。また河口で淡水と海水を分離するものは、「著しく濃度の異なる層が互いに分離された形で並ぶところの、「比重躍層帯」である」（＊注3）ことも発見されている。互いに分離された各層の中の水は、淡水とも海水とも塩分濃度を異にしている。（＊注4）（図 14 参照）

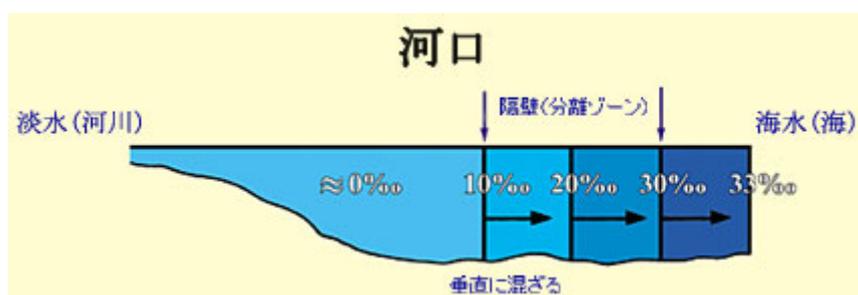



図14: 縦型の断面は河口における塩分濃度 (1000 分の 1 単位)を示している。淡水と海水の間には仕切り(分断帯)が示されている。 (*Introductory Oceanography*, Thurman, p. 301. 若干の補足あり)

これらの事実は水の温度、塩分濃度、比重、酸素溶解度などを測定する高性能の機器を使って、近年になって初めて発見された。肉眼では、合流する2つの海の違いを見極めることはできない。むしろ2つの海は1つの同じ海に見える。また同様に、河口においての水が淡水・海水・仕切り（分断帯）の中の水の3種類に分かれている様子を肉眼で見分けることはできない。

脚注:

(注1) *Principles of Oceanography*, Davis, pp. 92-93.

(注2) *Principles of Oceanography*, Davis, p. 93.

(注3) *Oceanography*, Gross, p. 242. また *Introductory Oceanography*, Thurman, pp. 300-301 を参照されるとよい。

(注4) *Oceanography*, Gross, pp. 244, 及び *Introductory Oceanography*, Thurman, pp. 300-301.

F) 深海と海中の内部波に関して

クルアーンの中にはこういう記述がある。

> **また（不信心者の状態は）、深海の暗黒のようなものである。その上に波が覆い、その上を更に波が覆い、更にその上を雲が覆っている。暗黒の上に暗黒が重なる。もしそこで自分の腕を外に向けて伸ばしてみても、それを見ることすら出来ない… （クルアーン 24:40）**

この節では深海の中の暗闇について触れられている。そこにおいては人は、伸ばした自分の手すら視覚で捉えることができない。深海の暗黒は水深およそ 200 メートル以下の地点から始まるが、この深さまで光が届くことは殆どない（図 15 を参照）。水深 1000 メートルでは、全く光の差さない世界になる。(＊注1)人間は潜水艦や特別な装置なしには水深 40 メートル以上潜ることができず、水深 200 メートルのような暗黒の深海では何らかの助けなしには生存することができない。

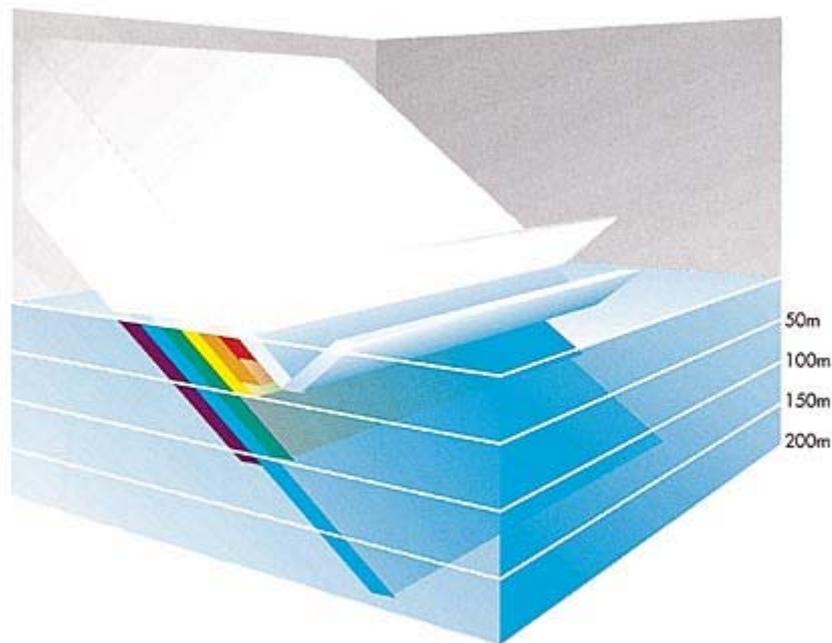



図15: 太陽光線は海面においてその 3〜30 パーセントが反射する。そして青色光線以外の 7 色の光スペクトラムは殆ど全て、水深 200 メートルに達する前にことごとく吸収されてしまう。
(*Oceans*, Elder and Pernetta, p. 27)

科学者たちが特殊な装置や潜水艦などの助けを借りて、大洋の深いところにまで達することが出来るようになったのは近年のことであり、そして初めてこの暗闇を発見したのである。

また既に取り上げたクルアーンの「**…深海の暗黒のようなものである。その上に波が覆い、その上を更に波が覆い、更にその上を雲が覆っている。**」という節からは、海や大洋の深海は波で覆われ、その波の上をまた波が覆っている、ということが理解できる。 そして 2 番目に言及されている波が海面上に現れる波のことを指しているということは、その上に雲があるという描写から見ても明らかである。それでは 1 番目の波は一体何を指しているのだろうか。科学者たちは近年、「比重の異なる層の境界面で発生する」(＊注2)海中の内部波の存在を発見した。(図 16 を参照)。

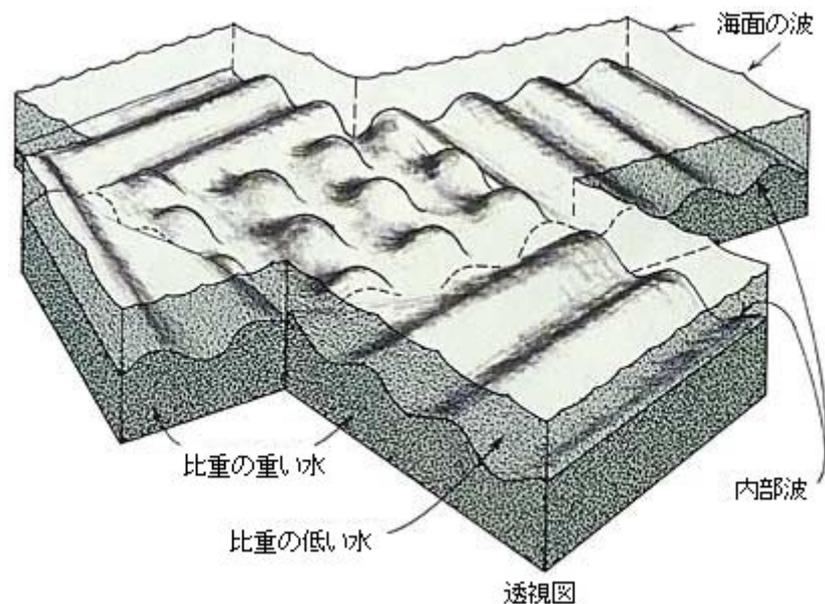



図16: 比重の異なる二つの水層の境界面で起こる内部波。下の層は比重が重く、上の層は比重が軽い。(*Oceanography*, Gross, p. 204)

海中の内部波は海や大洋の深海を覆っているが、その理由は深い層にある海水がその上の層の海水よりも比重が重いからである。内部波は水面上の波と同様に動き、水面上の波と同様に途絶えることもある。内部波は肉眼では見ることができないが、ある一定の場所では水温や塩分濃度の変化を調べることによって検知することができる。（＊注3）

脚注:

(注1) *Oceans*, Elder and Pernetta, p. 27.

(注2) *Oceanography*, Gross, p. 205.

(注3) *Oceanography*, Gross, p. 205.

G) 雲に関して

科学者たちは雲の種類を研究し、雨雲の形成がある特定の種類の雲と風に関連した一定のシステムと段階に法則づけられていることを解明した。

積乱雲は雨雲の一種である。気象学者はこの積乱雲がどのように形成され、そしてそこからどのようにして雨や雹や稲妻がもたらされるかを研究した。

そして彼らは積乱雲が次に示す段階に従って、雨を降らせる経緯に至ることを発見した。

- **ステップ（1） 雲が風で流される。**風がいくつかの雲の小片（積雲）を押しやってある一定の場所に収束させる時、積乱雲が形成され始める。（図 17～18 を参照）

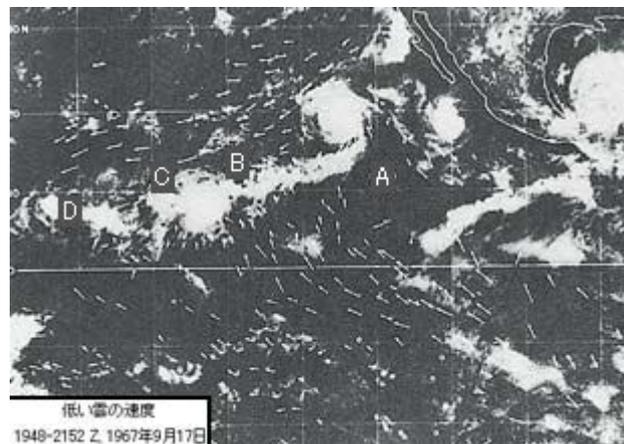



図17： この衛星写真では雲々が収束域 B、C、D に移動しつつある様子が伺える。矢印は風向を示す。 (*The Use of Satellite Pictures in Weather Analysis and Forecasting*, Anderson and others, p. 188.)

図18: 雲の小片（積雲）が大きな積乱雲のある収束ゾーンに集まる。 (*Clouds and Storms*, Ludlam, plate 7.4.)

- ステップ（2） 接合段階： それから小さな雲々が互いに接合し、1個の大きな雲を形成する。（＊注1）（図 18～19 を参照）

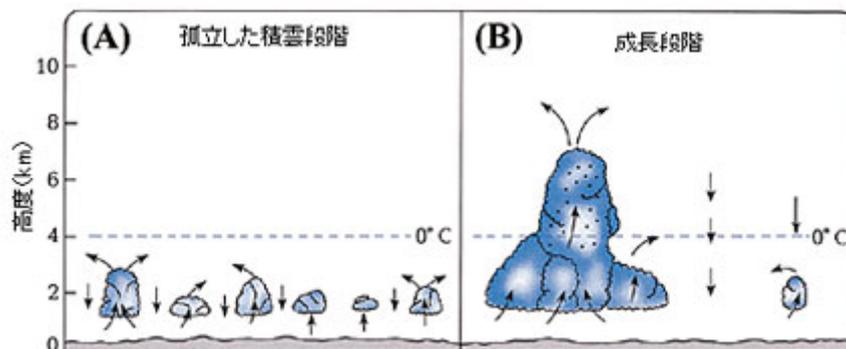



図19: (A) 孤立した雲の小片（積雲） (B) 小さな雲々が合体すると、その大きな雲の中で上昇気流が高まるため、雲が積み重なっていく。▪マークは水滴を示す。(*The Atmosphere*, Anthes and others, p. 269)

- ステップ（3） 堆積段階： 小さな雲々が合体すると、大きな雲の中で上昇気流が高まる。雲の中心部付近の上昇気流は雲の周辺部のそれに比べて強い。（＊注2） これらの上昇気流によって雲が垂直に成長し、雲は上空へ積み重なっていく形になる（図 19（B）、図 20、図 21 を参照）。この成長によって雲は大気中のより寒冷な領

域へと伸展し、そこで水滴と雹が形成され、次第に大きくなる。やがてこれらの水滴と雹が上昇気流が支えきれないほどの重さになると、雨や雹などの形になって雲から降り始めることになる。　（＊注3）

図20：積乱雲。雲が上空へ向かって積み重なった後、雨が生じる。(*Weather and Climate*, Bodin, p. 123)

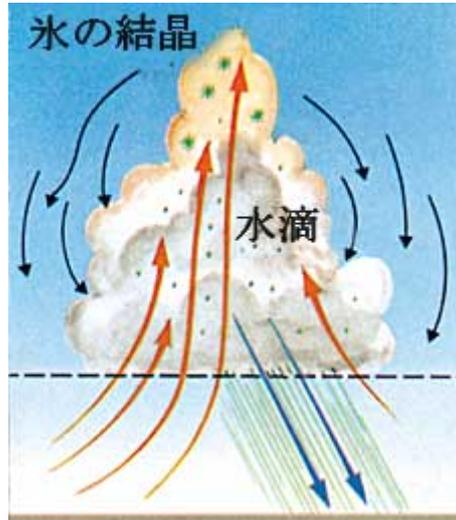



図21：積乱雲 (*A Colour Guide to Clouds*, Scorer and Wexler, p. 23)

クルアーンの中ではこう述べられている。

　あなたは見ないか、アッラーが雲を押し動かし、そしてそれらを結合させ、それからそれらを積重ねるのを。そしてあなたはそこから雨が降るのを見るのだ。　（クルアーン 24:43）

気象学者がこれら雲の形成や構造、機能に関する詳細を知るようになったのは、飛行機、衛星、コンピューター、気球など最新の装置を駆使して風とその方向を調べ、湿度とその変化を明確に知ることが出来るようになったごく最近のことなのである。（＊注4）

前述のクルアーンの同じ節では雲と雨についての言及とともに、雹と稲妻についても触れられている。

> **またかれは空の中の山（雲）から雹を降らせ、お望みの者をそれで撃ち、お望みの者をそれから回避させられる。稲妻の激しい閃きは、本当に視力を奪ってしまうかのようである。　（クルアーン 24:43）**

「またかれは空の中の山（雲）から雹を降らせ、…」とクルアーンに示されているとおり、気象学者は雹を降らせるこの積乱雲が、まさに山のように7600～9100 メートルもの高さになることを発見した。（＊注5） (上記の図 12 を参照)

しかしながらこの節には疑問が生じるかもしれない。なぜこの節では雹に関連して、稲妻が言及されているのだろうか？雹が稲妻を創り出す主要因だとでも言うのだろうか。*Meteorology Today* ［今日の気象学］という本を取り上げ、そこでこのことについてどのように書かれているか見てみよう。そこには雲の中には凍結されずに氷点下に冷却された水滴や氷の結晶の領域があり、そこを下方へ落ちていく雹が通過すると、
雲は電気を帯びていくということが記されている。
水滴は雹の粒と衝突すると互いに結び付き、同時に潜熱を放出する。そのため雹の粒の表面は氷の結晶のそれよりも暖かくなる。それで雹の粒が氷の結晶と接触すると、極めて興味深い現象が起こる。つまり電子が冷たい物質から暖かい物質に流れ、雹の粒は負電荷になるのだ。凍結されずに氷点下に冷却された水滴が雹の粒と接触したときにも同様の現象が起こり、これにより正電荷の小さな氷の粒が分散する。これらの軽い正電荷の粒子は上昇気流によって雲の

上層部へと運ばれる。負電荷の状態である雹は雲の下方へと落下するため、雲の下層部は負電荷になる。そしてこれらの負電荷が稲妻として放電されるのである。[*注6]このようにして、雹は稲妻を発生させる主な要因である結論付けることが出来る。

稲妻に関するこのような知識は、ごく最近になって明らかにされたことである。西暦 1600 年頃までは、アリストテレスの見解が気象学において支配的であった。例えば彼は大気の中には湿気と乾燥という2種類の気象現象があると主張した。そして雷は乾気が周囲の雲とぶつかり合う音であり、稲妻は乾気がごく僅かの火気によって発火し燃えることによる現象であるとした。[*注7] 約 1400 年前クルアーンが啓示された時代には、気象学においてはこのような見解が優勢だったのである。

脚注:

(注1) *The Atmosphere*, Anthes and others, p. 268-269. 及び *Elements of Meteorology*, Miller and Thompson, p. 141.

(注2)上昇気流は、雲の外側部分によって冷却効果から保護されているため、中心に近くなるほど強くなる。

(注3) *The Atmosphere*, Anthes and others, p. 269. 及び *Elements of Meteorology*, Miller & Thompson, p. 141-142.

(注4) *Ee'jaz al-Quran al-Kareem fee Wasf Anwa al-Riyah, al-Sohob, al-Matar*, Makky and others, p. 55 を参照。

(注5) *Elements of Meteorology*, Miller and Thompson, p. 141.

(注6) *Meteorology Today*, Ahrens, p. 437.

(注7) *The Works of Aristotle Translated into English: Meteorologica*, vol. 3, Ross and others, pp. 369a-369b.

H) 科学的視点から見た聖クルアーンの奇跡についての科学者のコメント

ここに示すのは、科学的視点から見た聖クルアーンの奇跡についての科学者[*注1]のコメントである。これらのコメントは全て「*This is the Truth*」という

ビデオテープから抜粋されている。このビデオテープでは、科学者たちが実際にコメントを述べている様子や肉声を聞くことができる。ビデオをご覧になりたい方は拙ウェブサイト www.islam-guide.com/truth をご訪問頂きたい。

1) T. V. N. ペルサウド（T.V.N Persaud）博士は、カナダのマニトバ州ウィニペグにあるマニトバ大学で解剖学教授、小児科・児童健康学教授、産婦人科学教授、そして生殖科学教授を務めている。博士はこの大学で解剖学部長を 16 年間務めた、この分野では非常に著名な人物である。更に彼は 22 冊の教科書を執筆・編集し、181 以上の科学論文を発表しており、1991 年には解剖学の分野ではカナダで最も優れた賞であるカナダ解剖学学会 J.C.B 最優秀賞を受賞した。博士はそれまで研究してきた、科学的視点から見たクルアーンの奇跡というテーマについて質問を受けた際、次のように答えた。

「私個人の印象では、ムハンマドはごく普通の人物であったようです。彼は読み書きを知りませんでした。そう、彼は文盲であったのです。そして私達は 1200 年（実際は 1400 年）前のことを話しています。科学的事実について驚異的なほど正確な、実に学識深い言明をする文盲の徒。私には、これが単なる偶然の一致であるとは思えません。彼の言葉は余りにも多くの事象において的を得ているため、ムーア博士同様私も、彼にこのような発言をさせたものが神のお告げまたは啓示であったとすることに、何らの矛盾も感じません。」

ペルサウド博士は彼の著書の一部にクルアーンの節と預言者ムハンマドの言葉を引用している。またいくつかの会議において、これらの節と預言者ムハンマドの言葉を紹介したりもしている。

2) ジョー・リー・シンプソン（Joe Leigh Simpson）博士は米国テキサス州ヒューストンにあるベイラー医科大学の産婦人科学部の教授及び主任教授であり、ならびに分子・人類遺伝学の教授でもある。彼には米国テネシー州メンフィスのテネシー大学産婦人科学部教授、産婦人科学部の主任教授を務めていた経歴もあり、また米国不妊治療学会の理事長でもあったこともある。彼は、1992 年に受賞した産婦人科学教授協会一般功労賞を含め、現在までに多くの賞を受賞している。博士は預言者ムハンマドの次に挙げる2つの言葉を研究した。

｛ **あなたがたの誰しもが 40 日間に渡り、母親の胎内でその肉体の各部を「構成させられる」…** ｝（＊注2）

｛ **胎児が42日間経過すると、主はそこに天使を送る。そしてその天使は胎児を形造り、聴覚、視覚、皮膚、肉、骨を創造する…** ｝（＊注3）

シンプソン博士は預言者ムハンマドのこの２つの言葉を広範囲に渡って研究し、胎児形成期において最初の40日間こそが他の段階と明確に区別できる期間であることに注目した。とりわけ彼は、預言者ムハンマドの言ったことが非常に正確であることに感銘を受けた。ある会議で、彼は次のような意見を述べた。

「この２つのハディース（預言者ムハンマドの言行録）から、40日目以前の主だった胎生学的発達の明確な予定が明らかになりました。また他の講演者が繰り返し指摘したように、これらのハディースに含まれている知識は当時の科学的知識を元に到達できた類のものであった筈がないのです…このことから私は、遺伝学と宗教の間には対立がないばかりでなく、宗教が伝統的な科学的方法に対して啓示によるヒントを加えることによって、科学を先導することすらあり得ると思います。またクルアーンの中には数世紀後になって初めて科学的根拠の正当性が判明した言明があり、この事実はクルアーンが神から啓示されたものであることを立証していると私は思うのです。」

3) E・マーシャル・ジョンソン（E. Marshall Johnson）博士は米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのトーマス・ジェファーソン大学の解剖学及び発生生物学の名誉教授であり、そこで解剖学の教授、解剖学主任教授、ダニエル・ボー研究所所長を22年間務めた。また彼は先天異常学会の会長でもあり、200冊以上の出版物の著者でもある。1981年サウジアラビアのダンマンで開かれた第7回医学会議の際、ジョンソン教授は彼の研究論文の発表で次のように述べた。

「（要約）クルアーンは外観上の発生と発達を描写しているだけではなく、胎内における発育段階をも掘り下げて説明しており、現代科学がようやく到達した重要な事柄を強調して示している。」

また彼は次のように述べた。

「私は科学者として、自分が見ることのできる特定のことしか扱うことができません。私は胎生学と発生生物学を理解し、クルアーンから翻訳された言葉を理解することもできます。しかしもし私が現在の知識をもって ムハンマ

ドの時代に自分が立ち戻ったとしても、クルアーンの中で説明されていることを説明することはできなかったでしょう。私にはこの事実について、ムハンマドという個人がどこかからこういった知識を得て構築したに違いない、という考え方を論駁するための証拠が見当らないのです。それゆえ彼が書きえたことの中に神の関与があったという考え方に対し、私は何の矛盾も見出しません。」（＊注4）

4) ウィリアム・ヘイ（William W. Hey）博士は著名な海洋学者である。彼は米国コロラド州ボルダーのコロラド大学における地質科学の教授である。彼は以前、米国フロリダ州マイアミのマイアミ大学ローゼンスティール海洋大気科学校の学部長でもあった。海について最近発見された事実が既にクルアーンに記述されていることについての議論の後、ヘイ教授は次のように述べた。

「このような情報がクルアーンのような古代の啓典に書かれていることはとても興味深い。この情報がどこから得られたのかは知る由もないが、それがクルアーンの中に存在し、この研究がその中のいくつかの節の意味を発見しつづけていることは非常に興味をそそられることだ。」

そしてクルアーンの典拠について質問されると、彼はこう答えた。

「ええ、神授のものであると考えることは出来るでしょう。」

5) ジェラルド・ジョーリンガー（Gerald C. Goeringer）博士は米国ワシントンDC のジョージタウン大学医学スクール細胞生物学部医学人体発生学科の学科指導者かつ助教授である。サウジアラビアのリヤドで開かれた第 8 回医学会議で、ジョーリンガー教授は研究論文の発表を次のようなコメントで始めた。

「僅か数アーヤ（クルアーンの節の単位）の中に、生殖細胞の結合に始まる器官発生学的な人間の発達について、非常に包括的な記述がなされています。 人体発生学の分野で、分類、用語、記述などにおけるこれほど完全かつ明確な記録は、それ以前に存在しませんでした。全てとは言わなくとも殆どの場合において、これらのクルアーンの記述は、伝統的な科学文献に記録された人間の胚と胎児の発生に関する様々な段階の記録より何世紀も先行していました。」

6) 日本の東京大学の名誉教授で、東京三鷹市にある国立天文観測所の所長も務める香西義英博士は、次のように述べた。

「クルアーンの中に天文学に関する真実を見つけたことに、非常に感動しています。我々現代の天文学者は宇宙の非常に小さい部分を研究してきました。非常に小さい部分を理解することに努力を傾けてきたのです。つまり望遠鏡は天体のごく一部しか目にすることが出来ず、宇宙全体について考えることがありませんでした。 クルアーンを読み、その問いかけに答えることによって、私は宇宙研究における自分の将来の方法性を見出すことができたと思います。」

7) テジャタート・テジャセン（Tejatat Tejasen）教授はタイのチェンマイ大学解剖学部主任教授であり、同大学の医学部長でもあった。サウジアラビアのリヤドで開かれた第 8 回医学会議で、テジャセン教授は立ち上がり、次のように述べた。

「私は 3 年程前からクルアーンに興味を持ち始めました。…私自身の研究とこの会議で学んだことから、1400 年前にクルアーンに記録されたことは全て真実であり、それは科学的な手段によって証明できると信じています。預言者ムハンマドは文盲であったことから、彼はこの真実を伝えた使徒に違いないと思いますし、そしてこの真実は正統な創造者からの啓示として彼に明示されたのです。この創造者こそ神に違いありません。今こそこの言葉を口にする時が来ました。“**ラー・イラーハ・イッラッラー**（アッラー[＊注5]の他に崇拝すべき神はなし）、**ムハンマドッラスールッラー**（ムハンマドはアッラーの使徒である）” 最後に、成功にあふれたこの素晴らしい会議の開催に心からのお祝いを申し上げたいと思います。…科学と宗教的観点からの成果だけではなく、多くの著名な科学者と会い、参加者の方々の中からも多くの新しい友人を得ることができました。そしてこの場にやってきて私が得た最も貴重なことは、「**ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー**（アッラーの他に神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒である）」であり、ムスリムになったことです。」

以上私たちは科学的視点からクルアーンの奇跡とそれについての科学者たちのコメントを取り上げてきたが、それでは次の問題を提起してみよう。

- 様々な分野で近年明らかにされた科学的知識が 1400 年前に啓示されたクルアーンの中で既に記述されていることは、単なる偶然に過ぎないのだろうか？
- このクルアーンはムハンマド、あるいは誰か他の人間によって執筆され得たのだろうか？

唯一考えられる答えは、このクルアーンが神によって啓示された言葉そのものに違いないということである。

脚注:

(注1) 本書で取り上げた科学者の肩書きは 1997 年当時のものである。

(注2) *Saheeh Muslim*, #2643 and *Saheeh Al-Bukhari*, #3208.
注：本文での特別な括弧 {...} の中に挟まれている言葉は、預言者ムハンマドの言葉を訳したものである。また脚注で使われている記号 # はそのハディース集内の番号を示している。ハディースとは預言者ムハンマドの教友によって、彼の言動や黙認したことを伝えた記録である。

(注3) *Saheeh Muslim*, #2645.

(注4) 預言者ムハンマドは文盲であった。彼は読み書きができなかったが、クルアーンを教友に口述で伝え、一部の者たちにはそれを記録するように命じた。

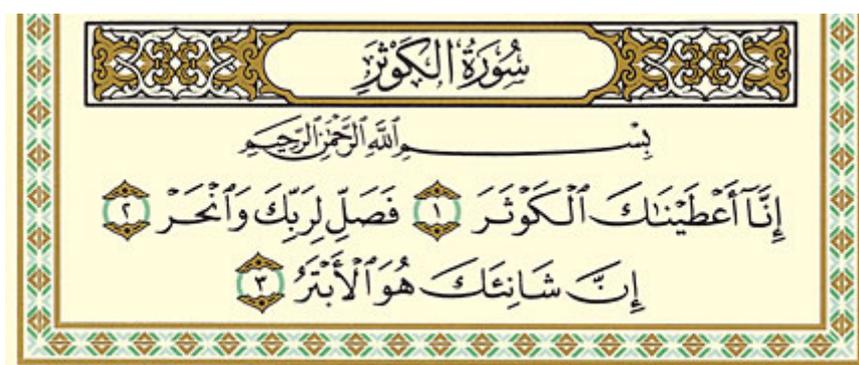
(注5) アッラーとはアラビア語で、唯一絶対の神、全世界の創造主を表す。ちなみにアラブ人のユダヤ教徒、キリスト教徒も同じ言葉で神を表す。

(2) 聖クルアーンに匹敵するものをただの 1 章でも創ることの不可能性

クルアーンの中には次のような節がある。

> **もしあなたがたが、わがしもべ（ムハンマド）に下した啓示（クルアーン）を疑うならば、それに匹敵するものを 1 章でも創ってみなさい。そしてもしあなたがたが正しいと言うのならば、神以外の**

あなたがたの証人（支持者や援助者）を呼んでみなさい。もしあなたがたにそれができないならば、— いや、出来るはずもないのだが — 人間と石を燃料とする（地獄の）業火を恐れなさい。それは不信心者のために用意されている。（ムハンマドよ）信仰して善行に勤しむ者たちには、彼らのために、川が流れる庭（楽園）についての吉報を伝えなさい。（クルアーン 2:23-25）

約 1400 年前にクルアーンが啓示されて以来、その美しさ、雄弁さ、壮大さ、英知に基いた法、真の知識と預言性、その他諸々の完璧な特長において、クルアーンに匹敵するものをただの 1 章でも創り出した者はいなかった。クルアーンの最も短い章（第 108 章）は僅か 10 個の（アラビア語の）単語で成立しているに過ぎないにも関わらず、いまだかつて誰もその挑戦に成功した者はいない。[＊注1] 預言者ムハンマドの敵であったアラブの不信仰者たちは、ムハンマドが真の預言者ではないことを証明しようとしてクルアーンに匹敵する節を創ろうとしたが、成功することはなかった。[＊注2] クルアーンは彼らの言葉と方言で啓示され、かつムハンマドの時代のアラブ人は並外れて雄弁な民であり、現在でも読み親しまれているような美しく素晴らしい詩を創作していた。このような事実にも関わらず、彼らの試みは失敗したのである。

聖クルアーンの中で最も短い章（第 108 章）は僅か 10 個の(アラビア語の）単語で書かれているに過ぎない。しかしいまだかつてクルアーンに匹敵する 1 章を創ろうとして成功した者はいない。

脚注:

(注１) *Al-Borhan fee Oloom Al-Quran*, Al-Zarkashy, vol. 2, p. 224.

(注２) *Al-Borhan fee Oloom Al-Quran*, Al-Zarkashy, vol. 2, p. 226.

(3) 聖書がイスラームの預言者ムハンマドの到来について言及していること

預言者ムハンマドの出現に関する聖書の預言は、聖書を信じる人々へのイスラームの真実性の証明となっている。

モーゼは旧約聖書申命記 18 章の中で、神が彼にこう語ったと述べた。**「われはあなたのような預言者を彼らの兄弟の中から育てるであろう。われはわれの言葉を彼に語らせ、彼はわれが命じることを全て彼らに告げるであろう。預言者がわれの名のもとに話すわれの言葉を聞かないものは、われが呼びつけ責任を取らせる(申命記 18:18-19)。」**（＊注1）

これらの節から、ここで予告されている預言者は次の3つの特徴を持っているということが分かる。

1) 彼はモーゼのようである。
2) 彼はイスラエルの兄弟、すなわちイシュマエルの子孫から生まれる。
3) 神は御言葉をこの預言者に語らせ、彼は神によって命じられたことを宣言する。

ではこの3つの特徴をより詳しく調べてみよう。

1) モーゼのような預言者

　モーゼとムハンマドの２人ほどよく似通った預言者は他にいない。２人には包括的な法律と人生の規範が与えられ、２人とも敵に遭遇し、奇跡的な方法で勝利を収めた。また2人とも預言者としてだけはでなく、政治家としても認められ、２人とも暗殺の陰謀から逃れるために移住した。モーゼとムハンマドの類似性は、上述の点のみには留まらない。それ以外にも他の重要な点が見過されている。それはモーゼとムハンマドが自然に誕生したこと、家庭生活を送ったこと、そして死亡した事において共通していることであり、この点イエスは異なっている。更にイエスは信者たちから神の子と見なされ、モーゼやムハンマドのように単なる預言者と見なされていない（ムスリムはイエスを預言者の１人であると信じている）。それゆえこの予告はイエスではなく、預言者ムハンマドについて言及したものである。ムハンマドはイエスよりもモーゼに類似している。

　またヨハネの福音書に、ユダヤ人たちが3つの明白な予告の実現を待っていたことが記されている。それは第一にキリストの到来、そして次にエリヤの到来、そして預言者の到来である。これらのことは伝道師ヨハネに向けられた次の3つの質問から明らかである。**「さてこれはヨハネの証言であった。エルサレムのユダヤ人が聖職者とレビ人を送り、彼が誰であるかを尋ねさせた。彼が告白できなかったのではない。彼は自分がキリストではないとはっきり告白した。かれらは“あなたは一体誰なのですか？”と尋ねた。“あなたはエリヤですか？”彼は“いいえ、そうではありません”と答えた。“あなたは預言者ですか？”と尋ねると、彼は“違います。”と答えた。（ヨハネの福音書　1:19-21）」**　聖書を照らし合わせてみると、「預言者」という言葉はヨハネ書 1:21 の傍注部分に出てくる。これらの言葉は　申命記 18:15 と 18:18 の預言のことを指している。(＊注2)　ゆえにイエス・キリストは　申命記 18:18 に出てくる預言者ではないと結論付けられる。

2) イスラエルの兄弟

　アブラハムには2人の息子イシュマエルとイサクがいた（創世記　21）。イシュマエルはアラブ民族の始祖となり、イサクはユダヤ民族の始祖となった。

ここで言われている預言者はユダヤ人の間から出てくるのではなく、その兄弟すなわちイシュマエルの子孫の出身のはずである。イシュマエルの子孫であるムハンマドこそが預言者であるに他ならない。

またイザヤ書 42:1-13 では、神のしもべ、法をもたらすことになる神の「選ばれし者」「使徒」について触れられている。**「彼は地上に正義を確立するまで、たじろぐことなく失望することもない。島々は彼の法の中に希望を持つ。」(イザヤ書 42:4)**。また第 11 節では、待ち望まれていた者をケダルの子孫と結び付けている。ケダルとは誰なのか？創世記 25:13 によると、ケダルはイシュマエルの次男であり、預言者ムハンマドの祖先である。

3) 神は御言葉をこの預言者に語らせる

神の御言葉（クルアーン）は事実ムハンマドの口によって語られた。神は天使ガブリエルを遣わしてムハンマドに神の御言葉（クルアーン）そのものを教え、そして彼がその御言葉を聞いた通りに人々に語るように命じた。だからこそこの御言葉は彼自身の言葉ではない。それは彼自身の考えから生まれたものではなく、天使ガブリエルによって彼が語らされたものである。これらの言葉はムハンマドの在命中に、彼の監督のもと教友たちによって暗記され、筆録された。

また申命記の預言は、この預言者が神の御名において御言葉を語ると述べている。聖クルアーンを見ると、第 9 章を除く全ての章が「慈悲あまねく慈悲深い神の御名において」という句で始まっている。

また他の指摘（申命記の預言以外で）として、イサヤ書はケダルと関係する預言者を、主を讃える新しい歌（新しい言語での聖典）と結びつけている（イサヤ書 42:10-11）。これはイサヤ書の預言でより明確に述べられている。**「そして別の言葉で彼は人びとに語るであろう」(イサヤ書 28:11 KJV)**。他に関連する点として、クルアーンが 23 年間に渡って分けられて啓示されたことというのがある。この事実をイサヤ書 28 と比較すると興味深い。**「というのも、行いつづけ、決まりをもたらし続け、ここにもあそこにも」(イサヤ書 28:10)**。

申命記 18 の預言で神が述べられたことは注目に値する。**「預言者がわれの名で話すわれの言葉を聞かないものは、われが呼びつけ責任を取らせ**

る。」**(申命記 18:19)**。すなわち、聖書を信じる者は誰でもこの預言者が言うことを信じなければならない。そしてこの預言者こそが預言者ムハンマドなのである。

脚注:

(注1) 本文の節は *King James Version* を指す KJV と書かれているもの以外は全て *The NIV Study Bible, New International Version*(NIV 研究聖書・新国際版)を指している。

(注2) *The NIV Study Bible, New International Version* on verse 1:21, p. 1594.

(4) 未来の出来事を予見的中させたクルアーンの節

クルアーンで予言された出来事の一例は、ローマ人がペルシャ人に敗北してから 3〜9 年以内にローマ人がペルシャ人に勝利する、としたことである。クルアーンにはこう記述されている。

> **ローマの民は(アラビア半島から)近接する地において打ち負かされた。だがかれらは敗北の後、数年(3〜9 年)[*注1]の間に勝利するであろう....** (クルアーン 30:2-4)

この戦争について歴史が伝えてくれることに焦点を当ててみよう。*History of the Byzantine State* という書物によると、ローマ軍は西暦 613 年アンティオキアで惨敗を喫し、その結果ペルシャ人は全ての戦線を一気に前方へ拡大した。[*注2] 当時はローマ人がペルシャ人に勝利することなど考えられないことであったが、クルアーンはローマ人がその敗北後 3〜9 年の間に勝利すると予言している。ローマ人が敗北してから 9 年後の 622 年、ローマ軍とペルシャ軍の両軍はアルメニアの地で相見え、その結果ローマ軍が 613 年の敗北以来初めて、ペルシャ軍に対して圧倒的な勝利を収めた。[*注3] 神がクルアーンで述べられたように、予言は現実になった。

この他にもクルアーンの節や預言者ムハンマドの言葉で、未来の出来事を予言し後に現実化したものは数多くある。

脚注:

(注1) アラビア語の数年(bid'a)は 3〜9 年を表す。

(注2) *History of the Byzantine State*, Ostrogorsky, p. 95.

(注3)*History of the Byzantine State*, Ostrogorsky, pp. 100-101 and *History of Persia*, Sykes, vol. 1, pp. 483-484. また *The New Encyclopaedia Britannica*, Micropaedia vol . 4, p. 1036. も参照されるとよい。

(5) 預言者ムハンマドの行った奇跡

預言者ムハンマドは神の許しのもとに数多くの奇跡を行った。これらの奇跡は多くの人によって目撃されている。その例を以下に挙げていこう。

- マッカの不信仰者が預言者ムハンマドに奇跡を行うように言うと、彼は月を真っ二つに割って見せた。(＊注1)
- ムハンマドの教友たちの喉が渇き、1つの容器の中に僅かな量の水しか残っていなかったとき、彼の指の間から水が流れ出したこと。教友たちは彼のところに来て、容器の中に僅かな量の水しか残っておらず、礼拝のための清めの水も飲み水もないと訴えた。そこでムハンマドがその容器の中に手を入れると、彼の指の間から水があふれ出した。それから人々はその水を飲んだ上、清めをした。そこには 1500 人の教友がいた。(＊注2)

他にも彼が行った奇跡や彼の身に起こった奇跡は沢山ある。

脚注:

(注1) *Saheeh Al-Bukhari*, #3637, and *Saheeh Muslim*, #2802.

(注2) *Saheeh Al-Bukhari*, #3576 and *Saheeh Muslim*, #1856.

(6)ムハンマドの質素な生活

ムハンマドが預言者としての使命を受ける前とその後の生活を比べてみ

ると、ムハンマドが物質的な利益、偉大さ、威光、権力等を求めて預言者性を主張するニセ預言者であるとは、到底考えられないことが分かる。

ムハンマドは預言者としての使命を授かる以前は、経済的に困窮していたというわけではなかった。商人として成功し、評判のよかったムハンマドは十分満足のいく稼ぎを得ていたのである。それどころか預言者としての使命を受けた後には、それゆえに物質的にも窮するようになった。その具体的な例として、彼の生活について以下に示すような伝承がある。

- ムハンマドの妻であるアーイシャは言った。「私の甥よ、2ヶ月間でもう既に3回目の新月を見たというのに、その間一度も預言者の家では（食事を準備するための）火が焚かれていません。」彼女の甥は尋ねた。「叔母さん、それでは何を食べていたのですか。」彼女は答えた。「二つの黒いもの、つまりナツメヤシと水です。ただ、預言者には雌の搾乳用ラクダを持っているアンサール（＊注1）の隣人がいて、彼がそのミルクを預言者に届けてくれていました。」（＊注2）
- ムハンマドの教友であるサハル・イブン・サアドは言った。「神の預言者（ムハンマドのこと）は、神が彼を（預言者として）遣わしてから亡くなるまで、きめの細かい小麦粉で作ったパンを一度も食べませんでした。」（＊注3）
- ムハンマドの妻アーイシャは言った。「預言者が寝ていたマットレスは、ナツメヤシの木の繊維を革に詰めたものでした。」（＊注4）
- ムハンマドの教友であったアムル・イブン・アルハーリスによると、預言者が亡くなった時、彼には金銭の形による遺産は一切なく、唯一残したのが乗物用の１頭の白いラバと武器、そして施しとして寄贈した僅かな土地だけであった。（＊注5）

ムハンマドが預言者として遣わされてから１８年後には、ムスリムは大勝利を収めた。そして彼が亡くなる前にはアラビア半島の大部分はムスリムの支配下に入った。また、イスラーム国家の国庫は彼の掌中にあった。それにも関わらず、ムハンマドは困窮した生活を送っていたのだった。

このような生活をしていたムハンマドが地位、偉大さ、権力等を得るために預言者であることを主張したとは考えられるだろうか。地位や権力を享受したいという欲望には普通、美食、華やかな衣服、豪勢な宮殿、厳重な護衛、絶対的な権威などがつきものである。このような特徴が１つでもムハンマドに

当てはまるだろうか？ この疑問の回答は以下に示される彼の人生の側面を一瞥するだけで容易に得られるだろう。

預言者、教師、政治家、判事などといった任務を負っていたにも関わらず、ムハンマドは自ら山羊のミルクを絞ったり、（＊注6） 自ら服を繕ったり、靴を修繕したりした。（＊注7） また家事を手伝ったり、（＊注8） 貧しい病人を見舞ったりもした。（＊注9） また教友たちが塹壕を掘るのを手伝い、一緒に砂を運んだりもした。（＊注10） 彼の人生は驚異的なまでの質素さと謙虚さの典型であったのだ。

ムハンマドの教友たちは非常に深く彼を愛し、尊敬し、信頼した。それでも彼は崇拝というものは神にのみ向けるべきであり、彼個人に向けるべきではないことを強調し続けた。ムハンマドの教友の１人であったアナスによると、彼らは預言者ムハンマドを誰よりも愛したが、人々が彼の来訪を理由に敬意を表して立ち上がるようなことはなかった。それは人々が他の偉大な人物に対してするように、彼のために立ち上がるのを嫌がったからである。（＊注11）

迫害、苦痛、拷問といったムハンマドとその教友たちに対しての長く苦しい時代が始まり、イスラームの成功など思いもよらなかった時に、ムハンマドに魅力的な申し出がなされた。異教徒の指導者オトバの使いがやってきて彼に次のように言ったのだ。「…もし財をお望みならば、あなたが誰よりも富裕になれるだけの財産を差し上げましょう。もし権力をお望みならば、あなたを我々の指導者にして、万事あなたの承認のもとに物事を決定することにしましょう。もし王国をお望みならば、我々の王位を授けましょう。」 この申し出に対する見返りとしてムハンマドが譲歩しなければならない唯一のことは、イスラームの布教であり、つまり主を崇拝するにあたっていかなるものも彼と並べて拝さないことへと人々を誘うことを諦めることであった。世俗的な利益を求める者にとって、このような申し出が魅力的でなかったはずがあるだうか？そしてムハンマドはこの申し出を前に躊躇しただろうか？ それとももっと良い申し出を引き出すための交渉戦略として、この申し出を断ったのだろうか？ いや、彼の答えは次に示すものであった。「**慈悲あまねく慈愛深き神の御名において、**」 彼はそう言うと、オトバに向かってクルアーン（41:1-38）を朗誦した。（＊注12） 下記に示すのがその一部である。

慈悲あまねく慈愛深き御方（神）からの啓示である。それは

各節が詳細に説明された啓典で、思慮ある民へ向けられたアラ

ビア語のクルアーンである。（信仰者への）吉報と警告であるが、かれら（不信仰者）の多くは背き去って耳を傾けない。　（クルアーン 41:2-4）

また、別の機会に彼の叔父が彼にイスラームの布教を断念するように懇願すると、ムハンマドはきっぱりと、そして誠実にこう答えた。{**叔父さん、神の御名に誓って申しましょう。布教を諦めるのと引き換えに彼らが私の右手に太陽を、そして左手に月を与えようとも、決して断念することはありません。神がイスラームに勝利を与えるか、あるいは布教において私のこの身が果てるか、そのどちらかなのです。**}[（＊注13）]

ムハンマドとその信者たちは13年間の迫害に苦しんだだけではなく、不信仰者たちは何度もムハンマドの暗殺を企てた。ある時には、持ち上げるのも困難なほどの巨石を彼の頭に落として殺そうとした。[（＊注14）] また別の機会には彼の食物に毒を盛って殺そうとした。[（＊注15）] たとえ後に敵対者に対しての完全な勝利を収めることになったとはいえ、これほどの苦しみを味わい犠牲を払った人生を当然の報いとすることができるだろうか。彼は最も輝かしい勝利の時でさえ、成功はただ神のおかげであり、自分の能力によるものではないと主張した。彼のこのように高潔で謙虚な態度をどのように説明すべきだろうか？ これが権力に飢えた自己中心的な人物の印となりえるであろうか？

脚注:

(注1) アンサール（援助者たち）とは、マッカのムスリムたちが着の身着のままに近い状態でマディーナへと聖遷（ヒジュラ）した際、彼ら移住者たち（ムハージルーン）を様々な形で援助した受け入れ先マディーナ側のムスリムたちを示す。

(注2) *Saheeh Muslim*, #2972, and *Saheeh Al-Bukhari*, #2567.

(注3) *Saheeh Al-Bukhari*, #5413 and *Al-Tirmizi*, #2364.

(注4) *Saheeh Muslim*, #2082 and *Saheeh Al-Bukhari*, #6456.

(注5) *Saheeh Al-Bukhari*, #2739 and *Mosnad Ahmad*, #17990.

(注6) *Mosnad Ahmad*, #25662.

(注7) *Saheeh Al-Bukhari*, #676 and *Mosnad Ahmad*, #25517.

(注8) *Saheeh Al-Bukhari*, #676 and *Mosnad Ahmad*, #23706.

(注9) *Mowatta'　Malek*, #531 の.

(注10) *Saheeh Al-Bukhari*, #3034 and *Saheeh Muslim*, #1803 and *Mosnad Ahmad*, #18017.

(注11) *Mosnad Ahmad*, #12117 and *Al-Tirmizi*, #2754.

(注12) *Al-Serah Al-Nabaweyyah*, Ibn Hesham, vol. 1, pp. 293-294.

(注13) *Al-Serah Al-Nabaweyyah*, Ibn Hesham, vol. 1, pp. 265-266.

(注14) *Al-Serah Al-Nabaweyyah*, Ibn Hesham, vol. 1, pp. 298-299 頁

(注15) *Al-Daremey*, #68 and *Abu-Dawood*, #4510.

(7) イスラームの驚異的拡大

本章の終わりに、イスラームの真実性に関する重要な指摘を示すことが適切かと思われる。つまりイスラームは特に欧米諸国、及び世界中で最も急速な拡大が観察されている宗教である。それについて以下のような報告がなされている。

- 「イスラームは米国で最も急速に広がっている宗教である。そして多くの米国民にとって安定への導きと支えとなっている…」ヒラリー・ロダム・クリントン（Hillary Rodham Clinton）、*Los Angeles Times*（ロサンゼルス・タイムズ）。（＊注1）
- 「ムスリムは世界中で最も急速に広がっているグループである…」人口統計局（The Population Reference Bureau）、*USA Today*。（＊注2）
- 「…イスラームはこの国で最も急速に広がっている宗教である。」ジェラルディン・バウム（Geraldine Baum：*Newsday* の宗教ライター）、*Newsday*。（＊注3）
- 「イスラームは米国で最も急速に広がっている宗教である…」アリ.L.ゴールドマン（Ari L.Goldman）、*New York Times*（ニューヨークタイムズ]）。（＊注4）

この現象は、イスラームが神から下された真の宗教であることを示している。また欧米諸国を含め様々な国々で多くの人々がイスラームに改宗して

いるが、彼らがイスラームの真実性を確信する前に入念な検討と熟慮を怠っていたとは考えにくい。そして彼らは出身国、社会階層、人種などを異にしており、職業についても科学者、教授、哲学者、ジャーナリスト、政治家、俳優、スポーツ選手など多岐に渡っている。

この章で取り上げたのは、クルアーンが神の御言葉であり、ムハンマドが神から遣わされた真の預言者であること、そしてイスラームが神によって下された真の宗教であるという信仰を裏付ける証拠のごく一部に過ぎない。

脚注:

(注1) Larry B. Stammer, Times Religion Writer, "First Lady Breaks Ground With Muslims," *Los Angeles Times*, Home Edition, Metro Section, Part B, May 31, 1996, p. 3.

(注2) Timothy Kenny, "Elsewhere in the World," *USA Today*, Final Edition, News section, February 17, 1989, p. 4A.

(注3) Geraldine Baum, "For Love of Allah," *Newsday*, Nassau and Suffolk Edition, Part 2, March 7, 1989, p. 4.

(注4) Ari L.Goldman, "Mainstream Islam Rapidly Embraced By Black Americans," *New York Times*, Late City Final Edition, February 21, 1989, p. 1.

第 2 章

イスラームの恩恵

イスラームは個人と社会の双方に多大な恩恵を与える。本章では、イスラームが個人に与える恩恵の一部を取り上げよう。

(1) 永遠の楽園への扉

クルアーンの中には次のような記述がある。

（ムハンマドよ、）信仰して善行に勤しむ者たちには、天国の楽園の吉報を伝えなさい。その楽園の下には川が流れ…　（クルアーン 2:25）

またこのような下りもある。

あなたがたは主のお許しを請うために、相競って努力しなさい。それは天地の広さほどの広大な楽園で、神とその使徒を信じる者たちのために準備されている…　（クルアーン 57:21）

預言者ムハンマドによれば、天国の住民の中で最下位の者たちでさえ、天国では現世の 10 倍に相当するものを得る。（＊注1） そして更に自分の望むものと、及びその 10 倍に相当するものも得る。（＊注2） またムハンマドはこうも言っている。｛ **天国における足１つ分の面積は、現世とそこにあるもの全てよりも優っている。**｝（＊注3） また彼は次のようにも言った。｛ **天国には人間が見たことも聞いたことも、思いもつかなかったものが待ち受けている。**｝（＊注4） またこのような彼の言葉もある。｛ **天国に入る運命にあったのだが、現世においては最も惨めな境遇にあった１人の男がいる。そして彼がついに天国を味わったとき、主は彼にこう訊ねる。“ アダムの子よ、そなたは今まで惨めな境遇にあったことがあるのか？艱難辛苦を味わっていたのか？ ” すると、彼はこう答える。“ 神かけて、主よ！私はいかなる惨めさも辛苦も味わいませんでした！ ”**｝（＊注5）

天国に入れば、病気や苦痛、悲しみや死といったことからは無縁の幸福この上ない生活が待っている。彼らはそこで神のご満悦を受けながら、永遠に暮らしつづける。クルアーンの中にはこうある。

だが信仰して善い行いに励む者は、われがかれらを川の流れる楽園に入らせ、永遠にその中に住まわせよう…　（クルアーン 4:57）

脚注:

(注1) *Saheeh Muslim*, #186 and *Saheeh Al-Bukhari*, #6571.

(注2) *Saheeh Muslim*, #188 and *Mosnad Ahmad*, #10832.

(注3) *Saheeh Al-Bukhari*, #6568 and *Mosnad Ahmad*, #13368.

(注4) *Saheeh Muslim*, #2825 and *Mosnad Ahmad*, #8609.

(注5) *Saheeh Muslim*, #2807 and *Mosnad Ahmad*, #12699.

(2)地獄の業火からの救い

クルアーンの中にはこうある。

> **信仰を拒否して不信仰者として死ぬ者は、たとえ大地に満ちるほどの黄金でその罪を償おうとしても、決して受け入れられないであろう。かれらには痛ましい懲罰があり、いかなる援助者もない。**（クルアーン 3:91）

このように現世とは、天国を勝ち取り、地獄を逃れるための単なるチャンスの場に過ぎない。信仰することなく死んでしまえば、もう1度この世に戻ってこれるチャンスはない。クルアーンの中には、最後の審判の日における不信仰者たちの心情が描かれている。

> **あなたがたがもし、かれらが火獄の前に立たされる姿を見たらどうであろう。その時かれらは言う。"ああ、わたしたちがもし（現世に）送り帰されるのならば、決して主の御言葉を拒否せず必ずや信仰するでしょうに。"**（クルアーン 6:27）

しかし誰しもチャンスは1度きりなのだ。

預言者ムハンマドは言った。{**現世では最も幸福だったが、最後の審判の日に地獄行きの判決を下された男がいる。彼は地獄を味わったとき、主は彼にこう訊ねる。"アダムの子よ、あなたは以前何かよい目を見ていたのか？以前は恩恵に授かっていたのか？"すると、彼はこう答える。"神か**

けて、主よ！私は何のよい目も見ておりませんでしたし、何の恩恵も授かっていませんでした！” }[（＊注1）]

脚注:

(注1) *Saheeh Muslim*, #2807 and *Mosnad Ahmad*, #12699.

(3) 真の幸福と心の平安

　真の幸福と平安は この世の創造者・維持者の命令に服従することによって見出される。クルアーンにはこうある。

実に神の唱念によってこそ、心が安らぐのである。（クルアーン 13:28）

　一方で、クルアーンから背き去ったものは現世で苦難を味わう。クルアーンにはこう述べられている。

クルアーン（神の訓戒）に背を向ける者は、[（＊注1）] **厳しい生活を強いられ、また審判の日には盲目で甦らされるであろう。**

（クルアーン 20:124）

　このことは、お金で買える物質的な快楽を楽しむ一方で、自殺に走ってしまうある種の人々が存在する原因をよく証明している。たとえば、キャット・スティーヴンス（現在はユースフ・イスラームとして知られる）は、時には一晩で 15 万ドル以上稼ぐ有名なポップシンガーであった。しかし彼はイスラームに改宗することによって、以前の物質的な成功の中では決して見出すことのできなかった本当の幸福と平安を発見したのである。[（＊注2）]

尚イスラームに改宗した人々にまつわる話にご興味がある方は、www.islam-guide.com/stories をご覧になるか、*Why Islam is Our Only Choice* （＊注3）というタイトルの著書をご覧下さい。この URL と著書には、国籍や経歴、教育程度を異にした改宗者たちの見解や感想が記されています。

脚注:

(注1) クルアーンを信じず、その命令にも従わないこと。

(注2) イスラーム改宗後の彼（キャット・スティーブンス(Cat Stevens)：現在はユースフ・イスラーム: Yusuf Islam）の人生の変化についての問い合わせは、こちらまで: 2 Digswell Street, London N7 8JX,United Kingdom.

(注3) Muhammad H. Shahid 著。コピーをご希望の方はウェブサイト www.islam-guide.com/stories をご覧になるか、（）ページに掲載された組織のいずれかにお問い合わせ下さい。

(4) 過去の全ての罪の赦免

イスラームに改宗すると、神はその人の過去の罪や悪行をすべてお赦しになる。**アムルという名の男が預言者ムハンマドのところにやって来て「右手を出してください。あなたへの忠誠を誓いましょう。」と言った。預言者が右手を伸ばすと、アムルは手を引っ込めた。預言者が、「アムル、一体どうしたのだ？」と尋ねると、彼は答えた。「1つ条件があるのです。」 預言者は尋ねた。「どんな条件だ？」アムルは、「神が私の罪をお赦しになることです。」と言った。預言者は言った。「イスラームへの改宗によって、過去の罪が全て帳消しにされることを知らないのか？」**（＊注1）

また預言者は、イスラームに改宗すると、善行と悪行による報奨があることを教えている。{ **至高至大なるあなたの主は、最も慈悲深いお方である。1つの善行を行う意図があってそれを行わなかった者には、彼のためにその1つの善行が記録される。そしてもしそれを実行するなら、その報奨はその 10 倍から 700 倍、あるいはそれ以上に倍増した形で記録される。また1つの悪行を行う意図があってそれを行わなかった場合、それは1つの善行**

として記録される。そしてもしそれを実行してしまったなら、それは彼に対して1つの悪行として記録されるか、あるいは神はそれをご免じになられるだろう。 }（＊注2）

脚注:

(注1) *Saheeh Muslim*, #121 and *Mosnad Ahmad*, #17357.

(注2) *Mosnad Ahmad*, #2515 and *Saheeh Muslim*, #131.

第 3 章

イスラームの一般情報

イスラームとは?

イスラームという宗教は、神が最後の預言者ムハンマドに啓示した教えを受け入れ、従うことである。

イスラームの基本的信仰

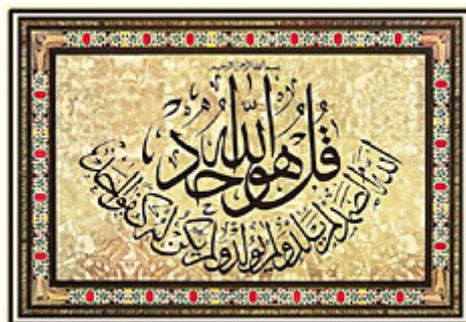
1) 神への信仰

ムスリムは、唯一絶対で何ものにも比べざるところの神を信じる。神は息子も配偶者もなく、かれの他に崇められる権利を有するものは誰1人としていない。かれこそが真の神であり、他の神格は全て偽物である。かれは最も崇高な御名と畏敬すべき完璧な属性を有している。神の神格や属性を侵すものは何1つとしてない。クルアーンの中で、神は自らについてこう述べている。

言ってやるがよい。“ かれこそは神、唯一なる御方である。かれは自在され、全ての創造物はかれによって存在する。お産みなさらないし、お産れになられたのでもない。かれに匹敵する何ものもない。”　（クルアーン 112:1-4）

その唯一神の他に、礼拝、祈願、崇拝の対象となるにふさわしいものは何１つとしてない。

アラビア書道で書かれたクルアーン 112 章

その神だけが全能者、創造者、統治者、そして全宇宙の万物の維持者である。全ての物事はかれの管理下にあり、かれは自らの創造物から何も必要としないが、全ての創造物はあらゆる面においてかれを必要としている。かれはあらゆることを聞き、見、知っている。かれの叡智は完璧であり、公のことも秘められたことも、全てを包含する。かれは過去に起こったことも、これから起こることも、それがどのように起こるかも全てご熟知している。世界中のあらゆる出来事は、全てかれの意志に基いて起こる。かれが望むことは全て現実化し、望まないことは決して起こらない。かれのご意思はあらゆる創造物の意志を凌駕している。かれは万物を支配し、全能である。かれは最も恵み深く、慈悲あまねく慈愛深い御方である。預言者ムハンマドの言葉によると、神の慈悲は母親の子に対するそれよりももっと深い。（＊注1） 神は不正や暴虐とは無縁であり、その全ての裁決と実行において英明である。誰でも何かを祈願したい者は、かれとの間にいかなる仲介者を置くこともなく、かれに直接訴えかけることができる。

神はイエスではなく、イエスは神ではない。（＊注2） イエス自らもこのことを否定している。クルアーンの中にはこうある。

“ 神こそは、マリアの子メシア（イエス）である ”と言う者は、実に不信仰者である。メシアはこう言ったのだ。“ イスラエルの子らよ、私の主であり、あなたがたの主である神を崇めなさい。”およそ神に何も

のかを並べて拝する者は天国の楽園を禁じられ、その行き先は地獄の業火となる。不義を行う者には、（＊注3） いかなる援助者もないのである。 （クルアーン 5:72）

神は三位一体ではない。またクルアーンの中で神はこうも語っている。

“ 神は三位の一つである。”などと言う者は、実に不信仰者である。唯一の神の他に神はないのだ。もしかれらがその言葉を止めないなら、かれら不信仰者には、必ず痛ましい懲罰が下るであろう。彼らは何故、悔悟して神に御赦しを求めないのか。誠に神は寛容にして慈悲深くあられる。マリアの子メシア（イエス）は１人の使徒に過ぎない…（クルアーン 5:73-75）

イスラームは、神が万物創造の第７日目に休息したこと、神が天使の１人と取っ組み合いをしたこと、神が人間に嫉妬して陰謀をはたらくこと、神が人間の姿をしていることなどを全て否定している。またイスラームでは神に人間と同様の属性を与えることを否定する。これらはすべて神への冒涜である。神は至高であり、あらゆる非完全性から無縁なのだ。かれは疲れることもなく、まどろむことも眠ることもない。

アラビア語の アッラー は神（全宇宙を創造した唯一の、真なる神）を指す。この アッラー という言葉は神の名前であり、ムスリムであろうとキリスト教徒であろうと、アラビア語を話す人々は神をこう呼ぶ。この言葉は、唯一の真なる神以外に対して使われることはない。アラビア語の アッラー という言葉はクルアーンの中で約 2700 回出現する。アラビア語と近縁で、イエスの話していた言葉であるアラム語でも、（＊注4） 神はアッラーと呼称されている。

2) 諸天使への信仰

ムスリムは天使が実在すること、そして彼らが高貴な創造物であることを信じている。天使は神だけを拝し、かれに服従し、かれの命令よってのみ行

動する。ガブリエルもこうした天使のうちの１人で、ムハンマドにクルアーンを伝達する役割を担ったのは実に彼である。

3) 諸啓典への信仰

ムスリムは、神が人類への証しと導きとして諸預言者に啓典を下したことを信じる。これらの啓典の１つがクルアーンで、それは神が預言者ムハンマドに啓示したものである。神はクルアーンが、あらゆる改ざんや歪曲から守られることを保障している。神はクルアーンの中でこう宣言した。

本当にわれこそはその訓戒（クルアーン）を下し、必ずそれを（改ざんから）守護するのである。（クルアーン 15:9）

4) 諸預言者・使徒への信仰

ムスリムは、アダムから始まり、ノア、アブラハム、イシュマエル、イサク、ヤコブ、モーゼ、イエス（彼らに平安あれ）らがその系譜につながるところの、神の遣わした諸預言者と諸使徒を信じている。そして神はその永遠のメッセージを再確認するものとして、人類に対する最後のメッセージを啓示した。それこそが預言者ムハンマドにくだったものである。ムスリムは、ムハンマドが神から遣わされた最後の預言者であることを信じている。クルアーンの中にはこうある。

ムハンマドは、あなたがたの誰の父親でもない。しかし彼は神の使徒であり、預言者たちの封緘（ふうかん）なのである…（クルアーン 33:40）

ムスリムは、これら諸預言者・諸使徒が全て被造物の人間に過ぎず、神格などは有していないと信じている。

5) 審判の日への信仰

ムスリムは、審判の日（復活の日）を信じる。それは全ての人々がその信仰と行いによって神の裁きを受けるため、蘇らされる日のことである。

6) 天命への信仰

ムスリムは カダル （神によって定められた天命）を信じる。しかしこのことは、人間が自由意志を持たないということを意味するわけではない。むしろ、ムスリムは神が人間に自由意志を与えたことを信じている。すなわち、人間は善悪を判別することができ、自らの選択に責任を持つということである。

天命への信仰には、次の 4 つのポイントを信じることが含まれる。1) 神は過去も未来も全て知っている。2) 神は過去に起こったこともこれから起こることも全て記録している。3) 神が望むことは起こり、神が望まないことは実現しない。4) 神は万物の創造主である。

脚注:

(注1) *Saheeh Muslim*, #2754 and *Saheeh Al-Bukhari*, #5999.

(注2) 1984 年 6 月 25 日ロンドンの *Associated Press* の報告によると、テレビ番組で行われた調査でイギリス国教会の司教の大多数は、キリスト教徒はイエスキリストが神であったと信じる義務はないと述べている。この調査にはイギリス国教会の司教 39 人のうち 31 人が参加した。また更に報告書の述べるところによれば、31 人の司教のうち 19 人はイエスを「神の最高の代理人」であると見なすだけで十分であると述べている。この世論調査は *London Weekend Television* の毎週放送される宗教番組「*Credo*」で行われた。

(注3) 不義者は多神教徒を含む。

(注4) *NIV Compact Dictionary of the Bible*, Douglas, p. 42.

クルアーン以外に

イスラームの典拠は存在するか？

スンナ （預言者ムハンマドの言行、あるいは黙認事項）がイスラームにおける第 2 の典拠である。スンナ はハディースから成立したもので、これは預言者ムハンマドの教友が彼の言行及び黙認事項を確かな伝達経由をもって記録したものである。スンナ を信じることはイスラームの信仰の基本の1つである。

預言者ムハンマド

の言葉

- ｛ 信者たちは、互いの愛情、慈悲、同情心において 1 つの肉体のようなものである。一箇所でも具合が悪ければ、体の他の全組織がと熱と不眠に冒されながら彼を気遣うのだ。｝（＊注1）
- ｛ 信仰において最も完成された信者とは、道徳心の最も優れた者である。その中で最も優れた者は、彼らの妻に対して最もよい者である。｝（＊注2）
- ｛ 自分が望むことを自分の同胞に対しても望むようになるまでは、本当の信者であるとは言えない。｝（＊注3）
- ｛ 慈悲深い者は最も慈悲深いお方から慈悲を恵まれる。地にあるものに慈悲深くあれ。そうすれば神があなたに慈悲深くあるだろう。｝（＊注4）
- ｛ 同胞に微笑むことは施しである ...｝（＊注5）
- ｛ よき言葉は施しである。｝（＊注6）
- ｛ 神と審判の日を信じる者は、隣人に親切であるべきである。｝（＊注7）
- ｛ 神はあなたを姿形や財産で判断するのではない。あなたの心と行いを見るのである。｝（＊注8）
- ｛ 働く者にはその汗の乾かないうちに賃金を払いなさい。｝（＊注9）
- ｛ 或る男が道を歩いている時、喉の乾きに襲われた。すると井戸を見つけたのでその中に降り、水を飲んだ。そこから出てみると、犬が乾き

のため舌を出し、ハアハア言いながら泥を食べていた。男は言った。「この犬も喉が渇いているのだな。自分がそうだったように。」 そして井戸の中に降りると、靴に水を満たし、それを犬の口のところに持っていって飲ませた。アッラーは彼に報奨を与え、そして彼の罪を赦した。人々は言った。「預言者よ、畜獣にも報奨があるのですか？」 預言者は言った。「全ての生きとし生けるものには報奨がある。」 }（＊注10）

脚注:

(注1) *Saheeh Muslim*, #2586 and *Saheeh Al-Bukhari*, #6011.

(注2) *Mosnad Ahmad*, #7354 and *Al-Tirmizi*, #1162.

(注3) *Saheeh Al-Bukhari*, #13 and *Saheeh Muslim*, #45.

(注4) *Al-Tirmizi*, #1924 and *Abu-Dawood*, #4941.

(注5) *Al-Tirmizi*, #1956.

(注6) *Saheeh Muslim*, #1009 and *Saheeh Al-Bukhari*, #2989.

(注7) *Saheeh Muslim*, #48 and *Saheeh Al-Bukhari*, #6019.

(注8) *Saheeh Muslim*, #2564.

(注9) *Ibn Majah*, #2443.

(注10) *Saheeh Muslim*, #2244 and *Saheeh Al-Bukhari*, #2466.

イスラームにおける
審判の日とは？

キリスト教徒と同様、ムスリムは現世というものが来世に対する試験的な準備期間に過ぎないという信仰を持っている。各人にとって、現世での生活は死後の世界のための試練の場である。全宇宙が破滅するその日がやってくると、死者は神の審判を受けるために復活させられる。この日こそが永遠の生の始まりなのであり、審判の日である。この日全ての者がその信仰と行いに従って神からの報いを受ける。**「アッラーの他に真の神はなく、ムハンマドは神の使徒（預言者）である」** と信じて死んだ者はその日報われ、永遠の天国での生活を許される。クルアーンにはこうある。

そして信仰して善行に勤しむ者は楽園の住民である。その中に永遠に住むのだ。（クルアーン 2:82）

一方「アッラーの他に真の神はなく、ムハンマドは神の使徒（預言者）である」ことを信じることなく死んだ者は永遠に楽園に入ることは許されず、地獄に送られる。クルアーンにはこうある。

イスラーム以外の教えを追及する者は、決して受け入れられない。また来世においては、かれらは失敗者の類である。（クルアーン 3:85）

また次のようにもある。

信仰を拒否する不信仰者として死ぬ者は、たとえ大地に満ちるほどの黄金でその罪を償おうとも、決して受け入れられない。 これらの者には痛ましい懲罰があり、いかなる援助者もいない。（クルアーン 3:91）

ある人はこう思うかもしれない。「イスラームはよい宗教だと思うが、もしイスラームに改宗すれば、家族や友人や他の人々が私を迫害し、笑いものにするであろう。もしイスラームに改宗しなくても、天国に入ることはできるのだろうか？地獄の業火から救われるのだろうか？」

その答えは神が上述の節で仰せられている。「イスラーム以外の宗教を追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、失敗者の類である。」

預言者ムハンマドが人々をイスラームに導くために遣わされた後は、神はイスラーム以外の宗教への信奉を認めない。神は我々の創造者、維持者であり、この地上にあるもの全てを私たちのために創られた。私たちが手に入れる恩恵とよきものは全て神のおかげなのである。そのため、神、預言者、イスラームの教えを信じようとしないものは、来世で罰せられる。実際のとこ

ろ、私たちが創造された第一の目的は、クルアーン（**51:56**）にあるように、神だけを崇拝し、かれに服従することである。

この世での人生は非常に短い。審判の日、不信仰者は現世で送った生活がたった 1 日か数時間ほどのように感じる。クルアーンにこうある。

> **かれ（神）は仰せられよう。「あなたがたは、地上に何年滞在していたのか。」 かれらは言おう。「一日か、一日の一部分だけです…** （クルアーン 23:112-113）

またこのような言葉もある。

> **あなたがたは、われが（目的もなしに）戯れにあなたがたを創ったと思うのか。またあなたがたは（来世で）われに帰されないと思っているのか。神は、尊く気高い、真実の王である。崇められるべきものはかれの他にない…** （クルアーン 23:115-116）

来世での生活こそが真の生活である。そこでの生活は精神的なものだけではなく、肉体的でもある。

預言者ムハンマドは現世と来世を比べて次のように言った。{ **この世の価値は来世の価値と比べると、ちょうど指を海の中に入れてそれを取り出したときに付着した水滴のような（微々たる）ものである。**}[（＊注1）] すなわち、来世の価値と現世の価値を比べると、まさに大海と数滴の水のような比べようもないほどの大きな差異があるのである。

脚注:

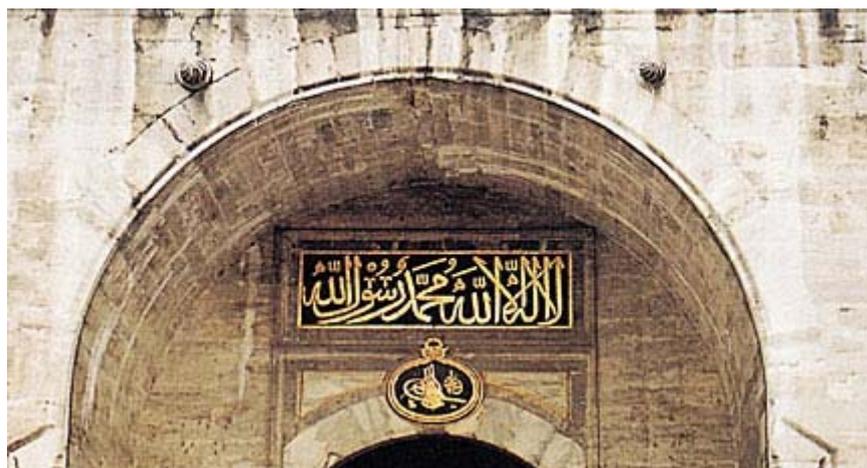
(注1) *Saheeh Muslim*, #2858 and *Mosnad Ahmad*, #17560.

ムスリムになるには？

一言で言えば、人は「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー」という言葉を確信を持って証言することによって、イスラームに改宗す

ることができる。(＊注1)この言葉の意味するところは「神(アッラー)の他に真の神はなく、(＊注2)ムハンマドは神の使徒(預言者)である。」ということである。最初の部分「アッラーの他に真の神はない」は崇められるべきものはアッラーの他になく、かれには配偶者も子もいないという意味である。また、ムスリムになるには、次に示すことを受け入れなければならない。

- クルアーンが神によって啓示された神の御言葉そのものであると信じること。
- 神がクルアーンの中で約束しているように、審判の日(復活の日)は真実であり、その日の到来を信じること。
- イスラームを自分の宗教として受け入れること。
- 神の他にいかなるものも崇めないこと。

　預言者ムハンマドの語った言葉に次のようなものがある。{ ある男がラクダに乗って無人の荒野を旅していた。しかしある時そのラクダが、食料と水を背中にくくりつけたまま逃亡してしまう。男はラクダが戻ってくる希望を失い、木陰に身を横たえて死を待つ。そのような絶望的な状況にある時、突然ラクダが彼の目の前に現れる。男は端綱を捕まえ、歓喜の叫びを上げる。「ああ主よ、あなたこそ私のしもべで、私はあなたの主です！」 彼の言い間違いは余りの嬉しさのためであった。 神は、この男がしたような悔悟に対してほどお悦びになられることはない。}(＊注3)

「アッラーの他に真の神はなく、ムハンマドは神の使徒(預言者)である」という言葉が入口に彫り込まれている。

脚注:

(注1) これをシャハーダ（証言）と言うが、成人男子ムスリム２人の証人が必要である。

(注2) 既に述べたように、アラビア語の言葉 アッラー は神（全宇宙を創造した唯一で真なる神）を意味する。「イスラームの基本的信仰」（１）神への信仰を参照。

(注3) *Saheeh Muslim*, #2747 and *Saheeh Al-Bukhari*, #6309.

クルアーンとは何か？

　最後に啓示された神の御言葉であるクルアーンは、全てのムスリムの信仰と実践の第一の源泉となっている。　クルアーンには叡智、教義、崇拝行為、取引、法律など人間の営みに関連するあらゆる事象を包含しているが、その基本的なテーマは神とその被造物である人間の関係である。　それと同時に公正な社会、人間にふさわしい品行、平等な経済制度に関する指針と詳細な教えをも私たちに示してくれている。

　クルアーンが、ムハンマドにアラビア語によってのみ啓示されたことは注目に値する。それゆえ英語であろうとその他の言語にであろうと翻訳されたものは、クルアーンではない。それはクルアーンの訳書ですらなく、単なるクルアーンの解釈本なのである。クルアーンはそれによって啓示されたところのアラビア語で書かれたものだけが、クルアーンとして認められるのだ。

預言者ムハンマドとは誰か？

　ムハンマドは西暦 570 年にマッカ（アラビア半島の 1 都市）で生まれた。彼の父は彼が生まれる前に亡くなり、母親も彼の幼少期に亡くなった。それゆえその後は、マッカに住む高貴な部族クライシュ族の中でも特に敬われていた家系出身の叔父に育てられた。彼は読み書きを習わずに育ち、亡くなるまで文盲であった。彼だけではなく、彼が預言者としての使命を授かる以前から人々は科学的知識などに対しても無知で、たいていの人々は文盲だっ

たのだ。ムハンマドは成長するにつれ、正直さや信頼性、寛大さや誠実さといった徳の高さで知られるようになった。人々の彼に対する信頼の篤さゆえ、「信頼できる人」とまで呼ばれるほどであった。(*注1) また彼は信仰心も非常に強く、当時の社会の退廃と偶像崇拝による堕落に愛想をつかせていた。

マディーナの預言者モスク

天使ガブリエルを通して神から最初の啓示を受けたのは、ムハンマドが40歳の時である。啓示はそれから23年間続き、それらを集大成したものがクルアーンと呼ばれているものである。

クルアーンを唱え、神が啓示した真理を布教し始めるやいなや、彼と少数の信者たちは不信仰者から迫害を受け始めた。迫害が余りにも厳しくなったため、622年には神は彼らに移住するように命じた。マッカの北方約420㌔の位置にあるマディーナへのこの移住が、イスラームで用いられるヒジュラ暦の初年となった。

その数年後ムハンマドと信者たちはマッカに凱旋したが、その際彼らは長年迫害され続けたマッカの不信仰者たちを赦し放免した。63歳でムハンマドが亡くなるまでに、アラビア半島の大部分がイスラーム国家の支配化になり、そして彼の死後100年も経たない内に、イスラームは西はスペイン、東は中国まで広がった。イスラームが急速かつ平和裏に広がった理由は、その教えが真実でかつ、明快であったためである。イスラームはただ崇められるべき唯一の神への信仰を呼びかけている。

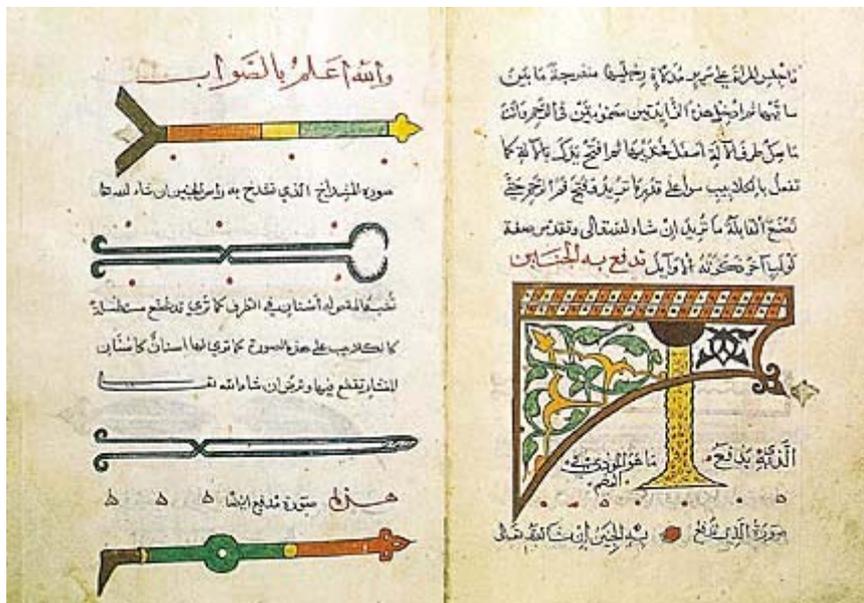
預言者ムハンマドは正直で、正義感が強く、慈悲深く、哀れみ深く、思いやりがありかつ、勇敢な人間という1個の完璧な模範である。彼は一介の人間ではあったが、邪悪な性格などからは程遠く、ただ神のため、そして来世におけるその報奨のためだけに奮闘したのである。何はともあれ、彼は全ての行動や取引において、常に神を念頭に置き、かれを畏れていた。

脚注:

(注1) *Mosnad Ahmad*, #15078.

イスラームの拡大が科学の発展に及ぼした影響

　イスラームは人々に知性と観察力を駆使するように教えている。 それゆえイスラーム拡大期の僅か数年で、偉大な文明や研究施設が隆盛を見た。東洋思想と西洋思想の統合、新旧思想の統合は医学、数学、物理学、天文学、地質学、建築、芸術、文学、歴史などの学問に多大な進歩をもたらした。 代数学、アラビア数字（数学の発展に不可欠であった）、ゼロの概念など多くの重要な学問体系がイスラーム世界から中世ヨーロッパに伝えられた。アストロラーベ（天体観測儀）、四分儀、詳細な航海図などヨーロッパ人の新大陸発見を実現させるに至った精巧な機器はいずれもムスリムが開発したのものなのである。

アストロラーベ（天体観測儀）：近代までヨーロッパで広く利用されていた最も重要な科学的機器の 1 つ。ムスリムによって開発された。

ムスリムの医学者は外科手術を非常に重要視し、この古い写本に見られるように多くの外科用器具を開発した

ムスリムにとってのイエス

　ムスリムはイエス（彼に平安あれ）を敬い、尊重している。そしてイエスを、神が人類に遣わした使徒の中で最も偉大な使徒の 1 人であると見なしている。クルアーンは彼の処女受胎を認め、クルアーンの中の 1 章には**マルヤム**章（マリア章）という題名のものすらある。クルアーンはイエスの誕生を次のように描いている。

天使たちがこういった時を（思え）。「マリヤムよ、本当に神は直接御自身の御言葉で、あなたに吉報を伝えられる。マリアムの子、その名はメシア・イエス。彼は現世でも来世でも高い栄誉を得、また（神の）側近の一人になるであろう。彼は揺り籠の中でも、また成人してからも人々に語りかけ、正しい者の一人であろう。」彼女は言った。「主よ、私はまだ誰にも触れられてはいない身です。どうして私に子ができましょうか？」かれは言った。「このように、神はお望みのものを御創りになられる。」 かれがある事を決められるにあたっては、ただ『有れ』と仰せになれば即ち有るのである。」（クルアーン 3:45-47）

イエスは神の命によって奇跡とともに誕生したのである。ちょうど神がアダムを父親なしに存在せしめたように。神はクルアーンの中で言っている。

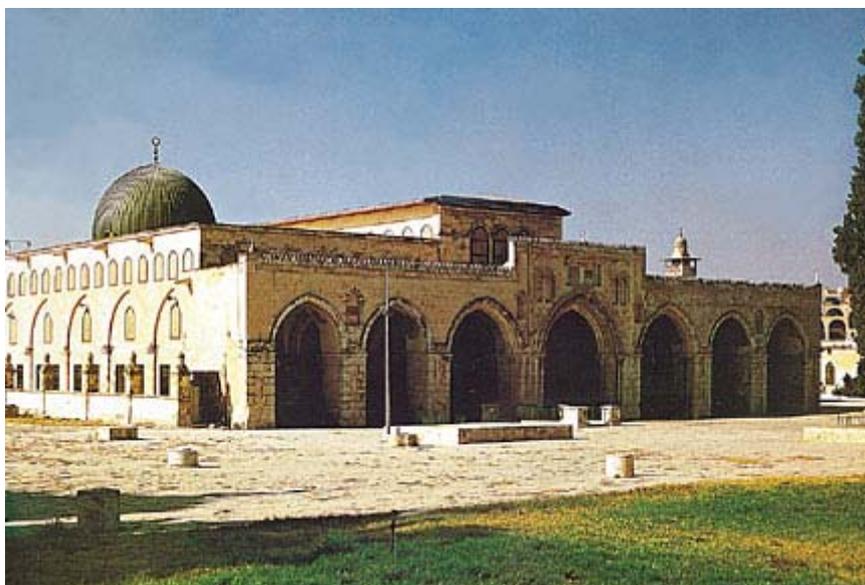
イエスの事例は神の御許においては、丁度アダムのそれと似通っている。かれは泥で彼（アダム）を創られ、それに「有れ」と仰せになると、彼は人間として存在したのだ。（クルアーン 3:59）

イエスが預言者として遣わされている間、多くの奇跡を行った。神はイエスの言葉をこう伝える。

「私はあなたがたの主から、みしるしをもたらされた。私はあなたがたのために泥で鳥の形を造り、それに息を吹き込もう。そうすればそれは神のお許しを得て鳥になろう。そして私は神のお許しを得て生まれつきの盲人やライ患者を治し、死者を生き返らせよう。また、私はあなたがたが何を食べて何を家に蓄えているかを告げよう… （クルアーン 3:49）

ムスリムはイエスが十字架にかけられていないと信じている。イエスの敵は彼を十字架にかけようとしたが、神が彼を救い、その御元に召し上げたのだ。そして神によって別の男にイエスの外見が与えられたのだが、イエスの敵はこの男を捕らえ、彼をイエスと思い込んで十字架にかけたのである。神はこう言っている。

> **…「わたしたちは神の使徒、マリアの子メシア・イエスを殺したぞ。」と彼らは言った。だが彼らはイエスを殺したのでもなく、十字架にかけたのでもない。ただ彼の外見が別の男に与えられたのだ（そして彼らはこの男を殺したのである）。…**　（クルアーン 4:157）

　ムハンマドもイエスも、それ以前の預言者たちにもたらされた、唯一の神に対する信仰という基本的教義を変えるために遣わされたのではない。むしろそれを確認し、更新するために遣わされたのである。（＊注1）

エルサレムのアルアクサーモスク

脚注:

(注1) ムスリムは、神が インジール と呼ばれる聖典をイエスに啓示したことは信じている。その一部は現在においても、イエスに対する神の教えとして新約聖書の中に残存している可能性はある。しかしそれはムスリムが今日存在している聖書を信じているということにはならない。それが神によって啓示された原典そのものではないからである。その内容は改ざん、追加、削除されてきた。The Holy Bible（ Revised Standard Version ： 聖書改定標準版 ）の改定を担当した委員会もこのことを認めている。この委員会は32人の学者の委員によって構成されていたが、彼らには相互に協力体制にある各教派の 50 人の代表からなる諮問委員会による検討や助言が準備されていた。委員会は The Holy Bible の序文（iv 頁）で、こう述べている。「しばしば聖書の原文がその伝達時に被害を被ったのは明らかであるが、しかしいずれの版も十分復元されていない。原典を可能な限り復元するには、優秀な学者の最善の判断に従う他ない。」 委員会はまた序文（vii 頁）で、こうも述べている。「古代の権威者による重大な変更、追加、削除を示す注釈が加えられている（マタイ 9.34; マルコ 3.16; 7.4; ルカ 24.32、51 等）。

イスラームにとってのテロリズム

慈悲の教えであるイスラームはテロリズムを認めていない。クルアーンにはこうある。

> **神は、宗教上のことであなたがたに戦いを仕掛けず、あなたがたを家から追放しなかった者たちに対してあなたがたが親切を尽くし、公正に待遇することを禁じられない。実に神は公正な者をお好みになられる。（クルアーン 60:8）**

預言者ムハンマドは兵士たちに女性と子供を殺すことを禁じて、[＊注1] 彼らに次のような忠告をしていた。**{…裏切ってはならない。度を越してはならない。生まれたばかりの赤子を殺すな。}**[＊注2] また次のようにも言った。**{ ムスリムと協定を結んだものを殺すものは誰でも、天国の香りを嗅ぐことはない。その香りは 40 年間もの距離に渡って漂っているにも関わらず、である。}**[＊注3]

また預言者ムハンマドは火で罰することを禁じた。[＊注4]

またある時彼は殺人を2番目の大罪に挙げ、（＊注5） 次のように警告した。｛ **審判の日に最初に裁かれるのは他人の血を流した人々である。**（＊注6）｝（＊注7）

ムスリムは動物に優しく接することを薦められており、それらを不正に傷つけることは禁じられている。預言者ムハンマドは申された。｛ **ある女性は猫を死ぬまで閉じ込めたために罰せられ、そのために彼女は地獄に送られることになった。彼女は猫を閉じ込め、食事も水も与えなかった。放し飼いにして地面の虫を捕獲させることすら許さなかったのである。**｝（＊注8）

彼はまた、非常に喉の渇いた犬に水を与えた男が、神に過去に犯した罪を赦されたことについても語った。それについて人々は預言者に訊ねた。「預言者よ、畜獣にも（それらに対する善行による）報奨があるのですか？」預言者は言った。｛**「全ての生きとし生けるものには報奨がある。」**｝（＊注9）

更に、食べる目的で動物を殺す場合、ムスリムはその動物の恐怖や苦しみをできるだけ少なくするように命じられている。預言者ムハンマドは言った。｛ **動物を屠殺するときは、最もよい方法で行いなさい。ナイフをよく砥いで動物が苦しまないようにしなさい。**｝（＊注10）

このような教えを含むイスラームのテキストの中では、無防備な市民の心に恐怖を与える行為や、建物や所有物の完全な破壊、無垢な人々や女性や子供を爆撃したり傷つけたりすることは全て禁じてられており、イスラームとムスリムにとって憎むべき行為となっている。ムスリムは平和、慈悲、寛容の教えに従っているのであり、彼らの大多数は現在ムスリムと結び付けられている諸々の野蛮な行為とは何の関わりもない。もしムスリムがテロ行為を犯すならば、その人物はイスラームの法を犯した罪人ということになる。

脚注:

(注1) *Saheeh Muslim*, #1744 and *Saheeh Al-Bukhari*, #3015.

(注2) *Saheeh Muslim*, #1731 and *Al-Tirmizi*, #1408.

(注3) *Saheeh Al-Bukhari*, #3166 and *Ibn Majah*, #2686.

(注4) *Abu-Dawood*, #2675.

(注5) *Saheeh Al-Bukhari*, #6871 and *Saheeh Muslim*, #88.

(注6) ここでは、殺人と傷害を指す。

(注7) *Saheeh Muslim*, #1678 and *Saheeh Al-Bukhari*, #6533.

(注8) *Saheeh Muslim*, #2422 and *Saheeh Al-Bukhari*, #2365.

(注9) *Saheeh Muslim*, #2244 and *Saheeh Al-Bukhari*, #2466.

(注10) *Saheeh Muslim*, #1955 and *Al-Tirmizi*, #1409.

イスラームにおける人権と正義

イスラームは個人に多くの人権を付与している。イスラームが保護する人権の幾つかを以下に挙げてみよう。

イスラーム国家における市民の生活と財産は、ムスリムであるか否かに関わらず、神聖なものと見なされている。またイスラームは人の名誉を保護する。それゆえイスラームでは他人を侮辱したり、揶揄することは認められない。預言者ムハンマドは言った。{ **本当にあなたの血、財産、名誉は侵さべからざるものである。**}[（＊注1）]

人種差別はイスラームでは許されない。クルアーンは次に挙げる節で人間の平等を唱えている。

> **人々よ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、民族と部族に分け隔てた。これはあなたがたを、お互いに知り合うようにさせるためである。神の御許で最も貴い者は、あなたがたの中で最も主を畏れる者である。**[（＊注2）] **本当に神は、全知にしてあらゆることに通暁なされる。**（クルアーン 49:13）

イスラームは富や権力、人種などの要素を基準に特定の個人や国家を特別視することを禁じている。神は人間を、信仰心と敬虔さという点以外においては区別されざるべき平等なものとして創造した。預言者ムハンマドは言った。{ **人々よ、あなたがたの神は1つであり、あなたがたの祖先（アダム）は1つである。アラブ人が非アラブ人より優れているわけではなく、非アラブ人がアラブ人より優れているわけでもない。白い者が黒い者より優れて**

いるわけではなく、黒い者が白い者より優れているわけでもない。(＊注3) 敬虔さだけが人を他の者より際立たせるものなのである。}(＊注4)

今日の人類が直面している大きな問題は人種差別である。 世界は人類を月に到達させるほどの発展を見たが、一方で人が仲間同士憎み争うことをまだ止められずにいる。 しかしイスラームは、預言者ムハンマドの時代から人種差別に終止符を打つ具体的な手立てを提案している。 毎年行われるマッカへの巡礼(ハッジ)では、約 200 万人ものムスリムが世界各国から参加するのであり、これこそあらゆる人種と国家を超えた真のイスラームの同胞愛を示している。

イスラームは正義の教えである。クルアーンにはこうある。

> 誠に神は、あなたがたが信託物をその権利者に忠実に果たすことを命じられた。またあなたがたが人の間を裁くときには、公正に裁くことを命じられている… (クルアーン 4:58)

そしてまた次のようにな言葉もある。

> …公正に行動しなさい。本当に神は公正な者を愛される。(クルアーン 49:9)

クルアーンで神が命じているように、ムスリムは憎悪している相手に対してでさえも公正でなければならない。

> …人々を憎悪するあまりに、正義に反してはならない。正義を守りなさい。それこそ最も篤信に近いのである… (クルアーン 5:8)

預言者ムハンマドは言った。{ **人々よ、不正**(＊注5)**に気を付けなさい。不正ゆえに審判の日が暗闇となるからである。**}(＊注6)

そして現世で権利(正当に要求できるもの)を得なかった者は、審判の日にそれを受け取る。預言者は言った。{ **審判の日、権利はそれを当然受け取るべき者に与えられる(そして間違った行いは是正される)…** }(＊注7)

脚注:

(注1) *Saheeh Al-Bukhari*, #1739 and *Mosnad Ahmad*, #2037.

(注2) 「主を畏れる者」とは、あらゆる種類の罪を避け、神が命じた全ての善行を行い、神を畏怖し、かつ愛するような者のことである。

(注3) ここで預言者が述べた皮膚の色は譬えである。その意味するところは、イスラームでは白、黒、黄色など皮膚の色によっての優劣は存在しない、ということである。

(注4) *Mosnad Ahmad*, #22978.

(注5) 不正とは他人を抑圧したり、公正を害したり、他人に悪行を働いたりすることをいう。

(注6) *Mosnad Ahmad*, #5798 and *Saheeh Al-Bukhari*, #2447.

(注7) *Saheeh Muslim*, #2582 and *Mosnad Ahmad*, #7163.

イスラームにおける女性の地位

イスラームにおいて女性の権利は、未婚であるか否かを問わず、全て本人自身が所有するものと見なされている。また後見人(父親、夫、その他)を置くことなく自分の財産や収入を所有したり処分したりする権利も、女性に与えられている。 女性はまた、売買に従事したり、贈与や慈善活動を行ったり、自分の財産を自由に使うことができる。 結納金は花婿から花嫁のものとして花婿から与えられ、また名前も夫の名前に変更するのではなく、自分の家族

の姓名をそのまま名乗ることが出来る。

イスラームは夫が妻を大切に扱うことを教えている。預言者ムハンマドはこう言った。{ **あなたがたの中で最善の者は、その妻にとって最善の者である。**}（＊注1）

またイスラームでは母親は非常に尊重されており、母親を丁重に扱うことが薦められている。 { **或る男が預言者のところに来て訊ねた。「預言者よ、最も近しくすべき人は誰でしょうか？」 預言者は言った。「母だ。」 男は言った。「その次は？」「その次は母だ。」「ではその次は？」「その次は母だ。」「ではその次は？」「父親だ。」**}（＊注2）

脚注:

(注1) *Ibn Majah*, #1978 and *Al-Tirmizi*, #3895.

(注2) *Saheeh Muslim*, #2548 and *Saheeh Al-Bukhari*, #5971.

イスラームにおける家族

文明の基礎単位である家族は現在崩壊しつつあるが、イスラームの家族制度は夫、妻、子供、親族など各々の権利に優れたバランスを与えている。イスラームの家族制度はよく組織化されており、その構造の中では非利己的な振る舞いや寛大さ、愛情が育まれる。また、堅固な家族によって育まれる平安と安全には重要な価値が置かれ、家族の構成員の精神的成長には欠かすべからざるものとして捉えられている。家族の絆の広がりと子供を大切にすることにより、調和の取れた社会秩序が築かれるのだ。

ムスリムの年長者への接し方

イスラーム世界では、「老人ホーム」は殆ど存在しない。年老いて弱った両親の世話をする苦労は名誉や恩恵とみなされ、精神的成長のための重要な機会と考えられている。イスラームでは両親のために祈るだけでは十分でなく、自分達が幼い子供の頃に彼らがわが身よりも大切にしてくれたことを思い出しつつ、彼らに限りない愛情をもって接することが要求されている。母親は特に敬意を払わなければならない。イスラームでは両親が老齢に達すると、親切心と無私の心によって彼らに慈悲深く接することが命じら

れている。

イスラームにおいて、親に仕えることは礼拝のそれに並ぶほどの大切な義務であり、親も大切に扱われる権利がある。親が老化によって気難しくなった時に、それに対して苛立ちをぶつけたりすることは卑しむべきことであるとされる。

クルアーンにはこうある。

> **あなたの主は命じられる。かれの他何者をも崇拝してはならない。また両親に孝行しなさい。もし両親かまたはそのどちらかがあなたの元で老齢に達しても、彼らに苛立ちをぶつけたり、叱り付けたりせず、親切な言葉で話しなさい。そして敬愛の情を込めて、両親に対し謙虚に振る舞い、「主よ、幼少の頃私を愛育してくれたように、2 人の上に御慈悲をおかけください。」と言いなさい。**（クルアーン 17:23-24）

イスラームの 5 柱

イスラームの 5 つの柱はムスリムの生活の基本である。つまりそれは信仰告白、礼拝、ザカート（喜捨）、ラマダーン月の断食、一生に一度可能な者に対してのマッカ巡礼である。

1) 信仰告白

信仰告白は確信を持って、**「ラー・イラーハ・イッラッラー、ムハンマドッラスールッラー」**と証言することである。その意味は**「神（アッラー）の他に真の神はなく、**（＊注1） **ムハンマドは神の使徒（預言者）である。」**ということである。最初の部分である「神の他に真の神はない」という言葉は、神の他に崇められる権利を持つものはなく、かれには配偶者も息子もないという意味である。信仰告白は **シャハーダ** と呼ばれ、イスラームに入信する際に確

信とともに口にされるべき簡素な教義である。信仰告白はイスラームの 5 柱の中で最も重要なものである。

2) 礼拝

ムスリムは 1 日に 5 回礼拝する。各礼拝に要するのは僅か数分余り。イスラームにおける礼拝は、信者と神の直接の交信であり、神と信者の間には何ものも介在することがない。

人は礼拝によって、内なる幸福、平安、安堵を感じ、神が自分を愛でられていることを実感する。預言者ムハンマドは言った。{ **ビラールよ、人々に礼拝を呼びかけなさい。そしてみんなで安らぎを得よう。**}[（＊注2）] ビラールはムハンマドの教友の 1 人、人々に礼拝を呼びかける役目を担っていた。

礼拝は夜明け前、昼、午後の終わり、日没直後、夜半に行われる。そしてムスリムは野外、事務所、工場、大学などあらゆるところで礼拝することが許されている。

3) ザカート（喜捨）

全ての物は神に属し、富は信託として人間に託されている。ザカート というアラビア語の本来の意味は「浄化」と[増加」である。ザカート の拠出とは、「特定の種類の財産にかけられた一定の割合の額を、一定の水準の困窮者などに与える」 ことを意味している。金や銀や現金に関しての割合額は 2.5%で、金にして約 85 グラム、銀にして約 595 グラム以上の価格に相当し、かつ太陰暦の 1 年を通して所有することが条件になっている。我々の財産は、困窮者に対してその僅かな一部分を取り分けることによって浄化される。それはあたかも木の剪定のようであり、裁断こそがバランスを保ち、新たな成長を促すのである。

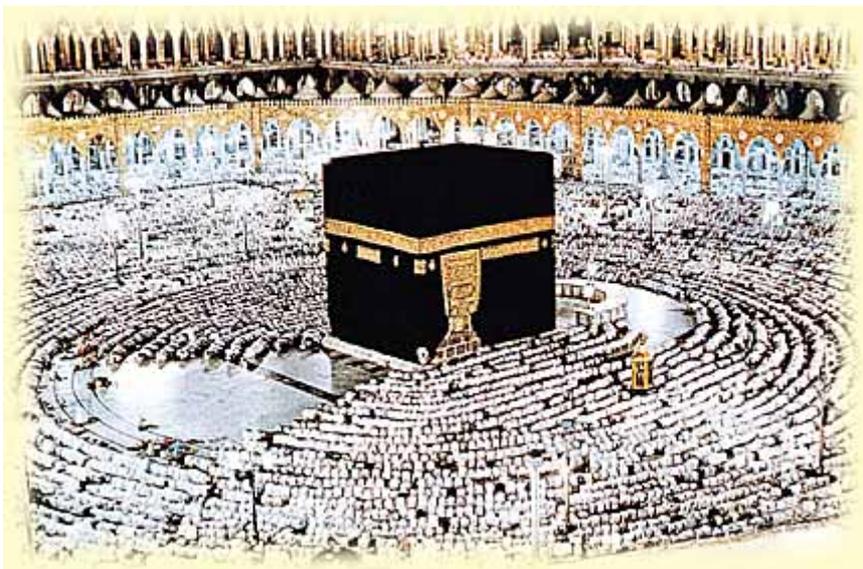
また施しや慈善については、各人が任意的に行うことができる。

4) ラマダーン月の断食

毎年ラマダーン月には、(＊注3)ムスリムは日の出から日没まで断食し、その間飲食や性交を断つ。

断食が健康によいのは勿論だが、イスラームではむしろ自己浄化の 1 方法と見なされている。断食する者はたとえ短い時間であっても、世俗的な快楽を控えることにより、飢える者に心から同情し、自己の精神を成長させることができる。

5) マッカ巡礼

毎年行われるマッカ巡礼 ハッジ は、その遂行において肉体的にも経済的にも能力のあるムスリムにとって、一生に一度は行うことが義務付けられている。毎年世界中からおよそ 2 百万人もの巡礼者がマッカを訪れる。マッカはいつも訪問者で溢れているが、恒例の ハッジ はイスラーム暦の 12 月に行われる。男性の巡礼者はあらゆる階級や文化の区別を払拭する特別で簡素な装いをし、神の前に平等な形で臨む。

マッカのハラームモスクで礼拝する巡礼者たち。このモスクの中心には、全世界のムスリムが礼拝時にそこに向かって立つ所のカアバ神殿（写真の中の黒い建物）がある。カアバ神殿は神が預言者アブラハムとその息子イシュマエルに建てるように命じた神の崇拝のための場所である。

ハッジ の儀式で巡礼者は、カアバ神殿の周囲を7周廻り、さらにハガルが水を捜し求めて走り回った逸話にちなんで、サファーとマルワの丘の間を7 回往来する。[＊注4] それから巡礼者はアラファト[＊注5] の地に共に立ち、祈願をしたり神の赦しを求めたりするが、これはしばしば審判の日の光景を想起させるものと見なされる。

ハッジ の最後は イードル･アドハー と呼ばれる礼拝を伴う大祭によって締めくくられる。この大祭と、 イードル･フィトル と呼ばれる断食月の終わりを祝福する大祭は、ムスリムにとって年2回の祭事である。

脚注:

(注 1) *Abu-Dawood*, #4985 and *Mosnad Ahmad*, #22578.

(注 2) ラマダーン月はイスラーム暦（太陽暦ではなく太陰暦）の9番目の月である。

(注 3) ハガルはアブラハムの女奴隷。彼らの子がイシュマエル。アブラハムは彼らを連れてマッカに辿り着いたが、神の命のままに2人をこの何もない砂漠の地に置き去りにした。ハガルは幼いイシュマエルを抱いて水を求めてサファーとマルワの丘の間を奔走したが、その昔この地には水も食物もなかった。このような場所に家族を置き去りにするのは一見不条理な話だが、アブラハムは神の命に対し常に従順であり、ハガルは辛抱強かった。そこでアッラーは大天使ガブリエルを遣わし、イシュマエルの足元に泉を噴出させた。これがいわゆる「ザムザムの水」である。この恵み多い水のお陰でこの地は定住可能になり、アブラハムが戻って来るまで彼らは無事に暮らすことが出来た。この両丘を往復する行はアブラハム、ハガル、イシュマエルによってその後もアッラーへの崇拝行為として存続し、今日に至っている。

(注 4) マッカから 24 キロのところにある台地。

イスラームに関するその他の情報

A Brief Illustrated Guide To Understanding Islam［イスラーム理解の図解付ガイド］に関する出版情報は以下に示される。

ISBN: 9960-34-011-2

Library of Congress Catalog Card Number［コングレス･カタログ・カード･ナンバーのライブラリー］: 97-67654

米国テキサス州ヒューストンの出版社・流通業者である Darussalam（ダールサラーム）による出版。

本書に関するご提案とご意見

本書についてのご提案やご意見をお持ちの方、イスラームについてもっとご存知になりたい方、イスラームに入信されたい方は、次のメールアドレスにご連絡ください：

japanese@islamhouse.com

または次の住所にご連絡ださい：

Islam Guide (Japanese)
5 Hasan bin Hussein bin Ali St.
PO Box: 343
Riyadh 11323
Saudi Arabia
電話番号：(966-1) 454-1065
ファックス：(966-1) 453-6842

参考文献

Ahrens, C. Donald. 1988. *Meteorology Today*. 3rd ed. St. Paul: West Publishing Company.

Anderson, Ralph K.; and others. 1978. *The Use of Satellite Pictures in Weather Analysis and Forecasting*. Geneva: Secretarial of the World Meteorological Organization.

Anthes, Richard A.; John J. Cahir; Alistair B. Fraser; and Hans A. Panofsky. 1981. *The Atmosphere*. 3rd ed. Columbus: Charles E. Merrill Publishing Company.

Barker, Kenneth; and others. 1985. *The NIV Study Bible, New International Version*. Grand Rapids, Michigan: Zondervan Publishing House.

Bodin, Svante. 1978. *Weather and Climate*. Poole, Dorest: Blandford Press Ltd.

Cailleux, Andre'. 1968. *Anatomy of the Earth*. London: World University Library.

Couper, Heather; and Nigel Henbest. 1995. *The Space Atlas*. London: Dorling Kindersley Limited.

Davis, Richard A., Jr. 1972. *Principles of Oceanography*. Don Mills, Ontario: Addison-Wesley Publishing Company.

Douglas, J. D.; and Merrill C. Tenney. 1989. *NIV Compact Dictionary of the Bible*. Grand Rapids, Michigan: Zondervan Publishing House.

Elder, Danny; and John Pernetta. 1991. *Oceans*. London: Mitchell

Beazley Publishers.

Famighetti, Robert. 1996. *The World Almanac and Book of Facts 1996*. Mahwah, New Jersey: World Almanac Books.

Gross, M. Grant. 1993. *Oceanography, a View of Earth*. 6th ed. Englewood Cliffs: Prentice-Hall, Inc.

Hickman, Cleveland P.; and others. 1979. *Integrated Principles of Zoology*. 6th ed. St. Louis: The C. V. Mosby Company.

Al-Hilali, Muhammad T.; and Muhammad M. Khan. 1994. *Interpretation of the Meanings of The Noble Quran in the English Language*. 4th revised ed. Riyadh: Maktaba Dar-us-Salam.

The Holy Bible, Containing the Old and New Testaments (Revised Standard Version). 1971. New York: William Collins Sons & Co., Ltd.

Ibn Hesham, Abdul-Malek. *Al-Serah Al-Nabaweyyah*. Beirut: Dar El-Marefah.

The Islamic Affairs Department, The Embassy of Saudi Arabia, Washington, DC. 1989. *Understanding Islam and the Muslims*. Washington, DC: The Islamic Affairs Department, The Embassy of Saudi Arabia.

Kuenen, H. 1960. *Marine Geology*. New York: John Wiley & Sons, Inc.

Leeson, C. R.; and T. S. Leeson. 1981. *Histology*. 4th ed. Philadelphia: W. B. Saunders Company.

Ludlam, F. H. 1980. *Clouds and Storms*. London: The Pennsylvania State University Press.

Makky, Ahmad A.; and others. 1993. *Ee'jaz al-Quran al-Kareem fee*

Wasf Anwa' al-Riyah, al-Sohob, al-Matar. Makkah: Commission on Scientific Signs of the Quran and Sunnah.

Miller, Albert; and Jack C. Thompson. 1975. *Elements of Meteorology*. 2nd ed. Columbus: Charles E. Merrill Publishing Company.

Moore, Keith L.; E. Marshall Johnson; T. V. N. Persaud; Gerald C. Goeringer; Abdul-Majeed A. Zindani; and Mustafa A. Ahmed. 1992. *Human Development as Described in the Quran and Sunnah*. Makkah: Commission on Scientific Signs of the Quran and Sunnah.

Moore, Keith L.; A. A. Zindani; and others. 1987. *Al-E'jaz al-Elmy fee al-Naseyah* (The scientific Miracles in the Front of the Head). Makkah: Commission on Scientific Signs of the Quran and Sunnah.

Moore, Keith L. 1983. *The Developing Human, Clinically Oriented Embryology, With Islamic Additions*. 3rd ed. Jeddah: Dar Al-Qiblah.

Moore, Keith L.; and T. V. N. Persaud. 1993. *The Developing Human, Clinically Oriented Embryology*. 5th ed. Philadelphia: W. B. Saunders Company.

El-Naggar, Z. R. 1991. *The Geological Concept of Mountains in the Quran*. 1st ed. Herndon: International Institute of Islamic Thought.

Neufeldt, V. 1994. *Webster's New World Dictionary*. Third College Edition. New York: Prentice Hall.

The New Encyclopaedia Britannica. 1981. 15th ed. Chicago: Encyclopaedia Britannica, Inc.

Noback, Charles R.; N. L. Strominger; and R. J. Demarest. 1991. *The Human Nervous System, Introduction and Review*. 4th ed.

Philadelphia: Lea & Febiger.

Ostrogorsky, George. 1969. *History of the Byzantine State*. Translated from the German by Joan Hussey. Revised ed. New Brunswick: Rutgers University Press.

Press, Frank; and Raymond Siever. 1982. *Earth*. 3rd ed. San Francisco: W. H. Freeman and Company.

Ross, W. D.; and others. 1963. *The Works of Aristotle Translated into English: Meteorologica*. vol. 3. London: Oxford University Press.

Scorer, Richard; and Harry Wexler. 1963. *A Colour Guide to Clouds*. Robert Maxwell.

Seeds, Michael A. 1981. *Horizons, Exploring the Universe*. Belmont: Wadsworth Publishing Company.

Seeley, Rod R.; Trent D. Stephens; and Philip Tate. 1996. *Essentials of Anatomy & Physiology*. 2nd ed. St. Louis: Mosby-Year Book, Inc.

Sykes, Percy. 1963. *History of Persia*. 3rd ed. London: Macmillan & CO Ltd.

Tarbuck, Edward J.; and Frederick K. Lutgens. 1982. *Earth Science*. 3rd ed. Columbus: Charles E. Merrill Publishing Company.

Thurman, Harold V. 1988. *Introductory Oceanography*. 5th ed. Columbus: Merrill Publishing Company.

Weinberg, Steven. 1984. *The First Three Minutes, a Modern View of the Origin of the Universe*. 5th printing. New York: Bantam Books.

Al-Zarkashy, Badr Al-Deen. 1990. *Al-Borhan fee Oloom Al-Quran*. 1st ed. Beirut: Dar El-Marefah.

Zindani, A. A. *This is the Truth* (video tape). Makkah: Commission on Scientific Signs of the Quran and Sunnah.

ハディースの番号付け:

本文中に引用したハディースの番号は以下の資料を元にしている。

- *Saheeh Muslim* : Muhammad F. Abdul-Baqy（ムハンマド F.アブドル・バーキー）版の番号順。
- *Saheeh Al-Bukhari* : Fath Al-Bari（ファトゥフ・アルバーリー）の番号順。
- *Al-Tirmizi* : Ahmad Shaker（アハマド・シャーキル）版の番号順。
- *Mosnad Ahmad* : Dar Ehya Al-Torath Al-Araby, Beirut（ダール・イヒヤー・アルトラース・アルアラビー）版の番号順。
- *Mowatta' Malek* : Mowatta' Malek（ムワッタア・マーリク）の番号順。
- *Abu-Dawood* : Muhammad Muhyi Al-Deen Abdul-Hameed（ムハンマド・ムフイイッディーン・アブドル・ハミード）版の番号順。
- *Ibn Majah* : Muhammad F. Abdul-Baqy（ムハンマド F.アブドル・バーキー）版の番号順。
- *Al-Daremey* : Khalid Al-Saba Al-Alamy（ハーリド・アッサバ・アルアラミー）及び Fawwaz Ahmad Zamarly(ファウワーズ・アハマド・ザマルリイ）版の番号順。

編集者について

著者

I.A.イブラーヒーム（I.A.Ibrahim)

英語版の一般編集者

ウィリアム・（ダーウード）・ピーチー（ William （Daud） Peachy）博士

マイケル・（アブドル ・ ハキーム）・トーマス（Michael （Abdul-Hakim） Thomas ）

トニー・（アブー・ハリール）・シルベスター（Tony （Abu-Khaliyl） Sylvester ）

イドリース・パーマー （Idris Palmer）

ジャマール・ザラボゾ （Jamaal Zarobozo）

アリー・アッティミーミー（Ali AlTimimi ）

英語版の科学編集者

ハロルド・ステュワート・クオフィ（Harold Stewart Kuofi）教授

F.A.ステイト（F.A. State）教授

マハジョウブ・O・ターハー（Mahjoub O.Taha）教授

アハマド・アッラーム（Ahmad Allam）教授

サルマン・スルタン（Salman Sultan）教授

H.O.シンディ（H.O. Sindi）助教授

、宇宙の起源に関する現代の見解］第 5 印刷。ニューヨーク: Bantam Books （バンタム・ブックス）

著作権

著作権

Copyright © 1996-2007 I. A. Abu-Harb

全権所有。本書 *A Brief Illustrated Guide To Understanding Islam*（邦題：図解イスラームガイド）のいかなる部分も、著者の書面による許可なく複写複製することを禁じます。本書からの複写を希望される場合は、「本書に関するご提案とご意見」のページにあるアドレスまでご連絡下さい。